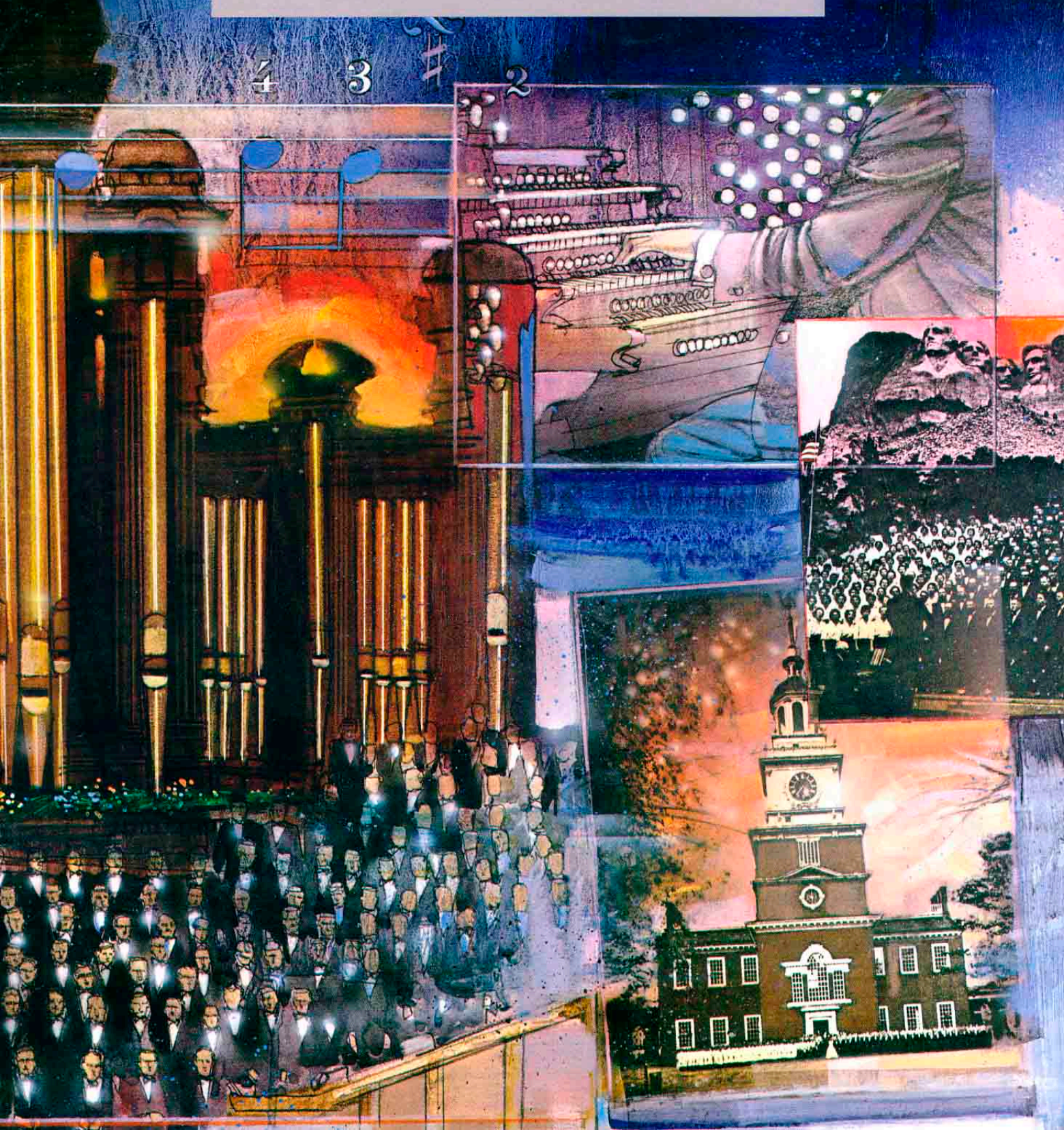


末日聖徒イエス・キリスト教会

1986

聖徒の道

8



聖徒の道

1986年8月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
 十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ピネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・パラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ダイアン・プリンクマン

レイアウト/デザイン：シャリ・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン

マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

聖徒の道 1986年8月号第30巻第8号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

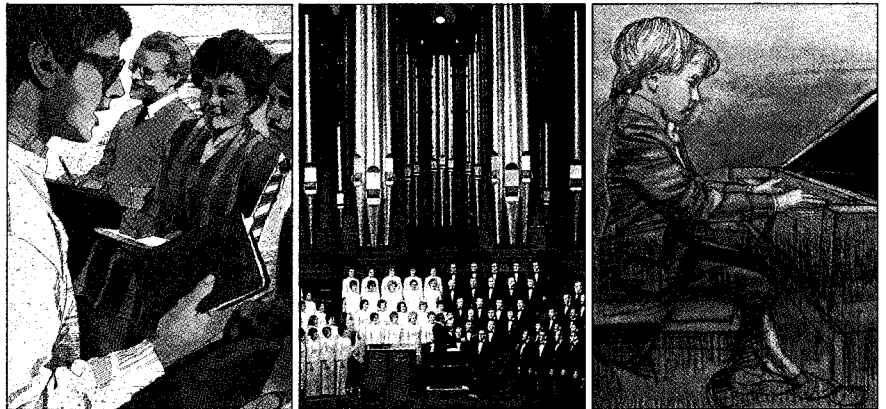
普通号150円,大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0482JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617●「聖徒の道」についての配達のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター/☎0427-96-2820



●表紙：モルモン・タバナクル合唱団

●もくじ

昇栄への招き	トーマス・S・モンソン	1
400人の名前を終えて	ジョン・B・フィッシュ	9
最後の500メートル	メルビン・リービット	10
起て聖徒ら神殿へ(新讃美歌)		12
タバナクル合唱団——300人の証がひとつとなって	ジャネット・ピーターソン	13
パニヤン・ダッドソン：ガーナで福音を見いだす	ローリー・ウィリアムズ・ソービー	18
主を信頼せよ	ジーン・R・クック	20
啓示：ジョン・テイラー		表3
チャーチニュース、各地のたより		
子供のページ(別冊付録)		
サムくんとさんぽにいこう		1
ジョージ・フレデリック・ヘンデル	メアリー・L・デア	2
おもちゃばこ——きんばんをさがそう		5
モルモンとモルモンけい	マーク・E・ピーターセン	6

大管長会メッセージ

昇栄への招き

第二副管長
トーマス・S・モンソン

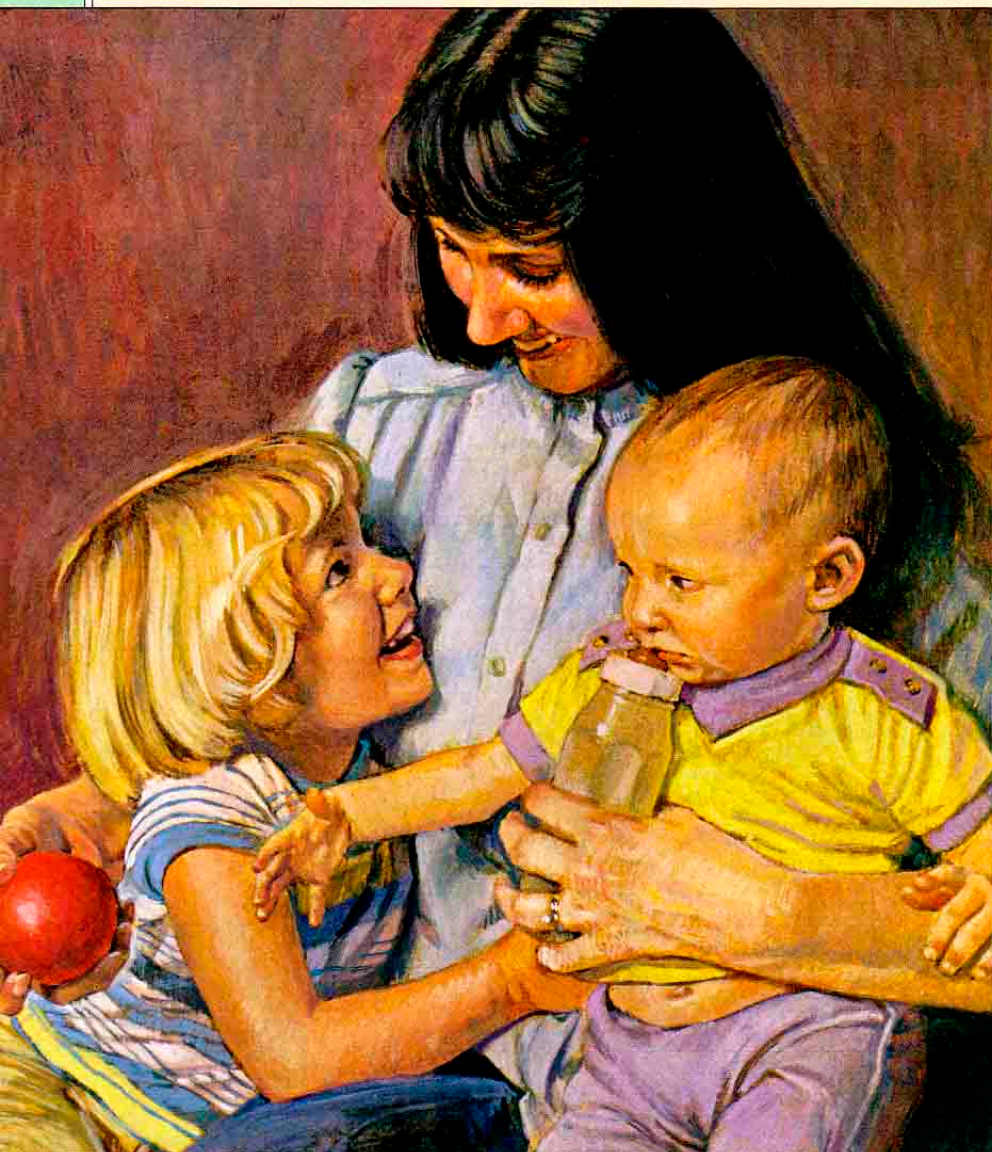


狂気じみてさえ見えるこうした現代の人の流れが、瞑想の時間として、すなわち時を超えた真理に思いをはせる時間として、止まることはあるのでしょうか。

どこを見ても急ぐ人々ばかりです。ジェット機は大切な乗客を乗せ、広大な大陸や大海原を所狭しと飛んでいます。人との約束を守るために、あるいは観光業者の呼び物に引き付けられて人人は空を飛び回り、友人や家族は、それぞれに特定の便を待ち受けています。車線がいくつもある近代的な高速道路では、何百万台という車が、東から西へ、

北から南へと朝から晩までひっきりなしに走り続けています。狂気じみてさえ見えるこうした人の流れが止まることはあるのでしょうか。この混乱した生活のペースが、瞑想の時間として、すなわち、永遠の真理に思いをはせる時間として、一瞬たりとも止まることはあるのでしょうか。永遠の真理に比べ、日常生活の問題や

悩みは実にささいなものです。夕食を何にしようか、今夜はいい映画をやっているだろうか、テレビの番組はどうだろうか、土曜日はどこへ出かけようかといった細々とした悩みは、たとえば自分の愛する者が傷を負った、健康を害して苦しんでいる、あるいは人生を半ばで終わろうとしているといった緊迫した状態にあるときには、実に取るに足らないつまら



生まれたばかりの赤ちゃんは、
肉体には栄養を、心には愛を必要とする
完全に頼りきった存在です。
母親はそのふたつを満たすことができます。

ないものに見えてきます。こうした状況
にあっては、真理と日常生活の細々とし
た事柄はすんなり切り離されるものです。
そして人々の心は、人はどこから来て、
なぜここにいるのか、この世を去った後
にどこへ行くのかといった、人生最大の
疑問に対する神聖な答えを求めて、神の
方向へ向くのです。これらの疑問に対す
る答えは、大学の教科書を開いても、情
報サービスセンターに電話を入れてもわ
かるものではありません。硬貨を放った

り、いくつかの選択肢の中から当てずっ
ぽうに選んだりして見つけるものではな
いのです。これらは、この世を超越した
永遠にかかわる問題なのです。

「わたしはあなたを……つぐらないさき
に……」

人はどこから来たのか。これは、両親
や祖父母の口から直接聞かれることはな
いにせよ、赤ちゃんが産声をあげたとき
にだれもが考えさせられる問題です。完

壁なまでに整った幼な子の姿に、目を見
張らない人はいません。外には見えない
循環器系、消化器系、神経系のすばらし
い働きは言うまでもなく、小さなつま先
や、かわいらしい頭、これらはどれもみ
な、聖なる創造主を証するものです。

予言者エレミヤに主の言葉が臨みまし
た。「わたしはあなたを……つぐらないさ
きに、あなたを知り、あなたがまだ生れ
ないさきに、あなたを聖別し、あなたを
立てて万国の預言者とした。」(エレミヤ
1：5) ひとりの人に向かって語られた
この言葉は、私たちすべてに当てはまる
ものです。使徒パウロは、マルスの丘の
アテネ人に、私たちは「神の子孫なので
ある」(使徒17：29)と言いました。自分
の肉体をこの世の両親から受け継いでい
ることを知っている私たちは、このパウ
ロの言葉の意味を、もっと真剣に考える
必要があるのではないのでしょうか。主は
このように言われました。「^霊而して、人間
は霊と体とより成る。」(教義と聖約88：
15) 私たちが神から受け継いでいるもの
は霊なのです。ヘブル書の著者は、神の
ことを「たましいの父」(ヘブル12：9)
と言っています。神は人間のように触知
できる、骨肉の体と霊からなる復活され
たお方であり、栄光を受け、昇栄された
方です。また全知全能であり、霊として、
力としてあらゆる所におられ、天と地と
その中にあるすべてのものを統治してお
られます。したがって、すべての人の霊
は、文字どおり「神より生れたる息子と
娘」(教義と聖約76：24)なのです。

使徒ヨハネは、前世に関する感慨深い
思いを、救い主の言葉を引いて次のよう
に記しています。「それでは、もし人の子
が前にいた所に上るのを見たら、どうな
るのか。」(ヨハネ6：62) さらにこう述
べています。「天から下ってきた者、すな
わち人の子のほかには、だれも天に上

た者はいない。」(ヨハネ3:13)

イエスも、外見上は私たちとあまり変わりありませんでした。ですから、次のような質問がたびたびなされたのも無理はありません。「この人は大工の子ではないか。」(マタイ13:55) イエスは、この世における使命を終わろうとしていたときでさえ、裏切り者のユダによらなければ正体が明らかにされないほどでした。イエスを十字架につけようとしていた人々でさえ、ほかの悪人たちと主を見分けることができなかつたのです。イエスの前世での生活がはっきり知らされている今日、神に似せて創造された私たちが、前世における自分の状態を知ることはむずかしいことでしょうか。

こうした人生の疑問については、聖典以外にも靈感を受けた証し人が心打つメッセージを書き、超越した思いをつづっています。

英国の詩人ウィリアム・ワーズワースは、真理を次のように歌いあげています。

われらの誕生は、ただ眠りと前世の忘却とにすぎず。

われらと共に昇りし魂、生命の星は、
かつていずこにか沈み、
はるかより来たれり。

すぎ去りし昔を忘れしにはあらず、
また赤裸にて来たりしにもあらず、
栄光の雲を曳きつつ、

われらの故郷なる神のもとより来たりぬ。

(『幼年時代を追想して不死を知る頌』岩波文庫「ワーズワース詩集」田部重治訳、岩波書店)

またある作家は、誕生したばかりの幼な子を「神の家から地上の花に加わった、人間というきれいな咲きたての花」と表現しています。

その小さな子供たちを見下ろしながら、あるいは成長していく彼らの手を取りながら、両親はその子供たちを教え、鼓舞する責任を、また導きを与え、模範を垂れる責任を自覚していくのです。こうして両親の自覚が深まっていく中で、成長し若者となった子供たちは、「自分はなぜここにいるのか」という鋭い疑問を感じ始め、「自分はなぜここにいるのだろうか」と心に秘かに問いかけるのです。

「私の父の家には……」

賢明な創造主は地球を創造され、そこに私たちを置いてくださいました。そして前世を忘却の幕で覆い、私たちが赦しの機会を経験し、神が備えてくださったすべてのものを受けるにふさわしいことをみずから証明できるようにしてくださいました。何と感謝すべきことでしょうか。

私たちがこの世にあるおもな目的は、骨肉の体を受け、天の両親を離れてこそできる様々な経験をすることです。私たちは実に多くの面で、自由に自分で選択することができます。この世にあって、私たちは経験からいろいろなことを学びます。また自分の決断が自分の行く末を決めるということも学びます。

パウロがピリピ人に、人は「恐れおののいて自分の救の達成に努め〔る〕」(ピリピ2:12) べきであると教える一方で、主は、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」(マタイ7:12) という黄金律として知られる律法を与えられました。

神の戒めに従順になることにより、私たちは次のイエスの言葉の中にある「家」にふさわしくなるのです。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。……わたしは……あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。……わたしのお

る所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ14:2-3)

このような遠大な事柄に目を向けてみると、私たちの思いは生まれたばかりの無力な幼な子に向けていきます。実際、赤ん坊ほど完全に他に頼りきった者はいません。彼らは肉体には栄養を、そして心には愛を必要とします。母親はこのふたつを満たすことができるのです。私たちをこの世に送り出すために、神と共に手を取り「死の谷陰」(詩篇23:4)に降りていった母親に、神はこの世で力を貸さずして、母としての使命を任せられることはないのです。貴い子供たちは、心から待ち受ける家族に愛をもって受け入れられるべきです。

「キリストによって救われる……」

かつて、予言者モルモンは息子のモロナイに次のように勧めました。「罪を犯すことができ罪の責任を負うことができる者に悔改めとバプテスマを教えよ。すなわち、親たる者に悔改めてバプテスマを受けなくてはならない、またその幼児のようにへりくだらなくてはならないと教えよ。かれらがそうするならばその幼児と共に救われるにちがいない。

しかしその幼児には悔改めもバプテスマも一切不要である。バプテスマは人がすでに悔改めたことを証明した確めるため、また罪の赦しを得るための神の命令を守るために施すものである。

幼児は世の始めからすでにキリストにより救われている。」(モロナイ8:10-12)

主は人が誕生してから、責任がとれるようになりバプテスマが必要になる8歳まで、8年間という特別な期間を設けられました。

米国の著名な作家グレン・ドーマン博士は、このように書いています。「生まれ



子供の頃、私は中間の男の子と一緒に小さな舟を作り、川に浮かべて競争しました。何の細工もない無力なその船は、結局転覆してしまいました。

たばかりの子供は、まさしくデータの入っていないコンピューターであって、しかもあらゆる面で他のコンピューターをしのぐものである。……生まれてからの8年間に子供の脳に蓄えられたものは、いつまでもそこに残るのである。」「赤ちゃんに読書の仕方を教えるには」フィラデルフィア、1979年、pp.43, 45)

子供の人格形成期には、福音という土台にしっかり根を下ろした生活を築いていくよう心がけなければなりません。是非とも永遠に目を向けた土台を築いていただきたいと思います。そうすれば、この世のいかなる嵐や試練にも耐えていくことができるはずです。

当然のことながら、両親からは次のような質問が聞かれるでしょう。「子供たちにどんなレッスンをすればよいのだろうか。」「一番大切な真理は何だろうか。」子供たちに最初に教えるべき原則は、永遠の父なる神と御子イエス・キリストに対

する従順な信仰です。パウロはヘブル人にこのような手紙を送っています。「というのは、彼らと同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである。」(ヘブル4:2)

数年前、ソルトレーク・シティーの新聞に、私の親友の死亡広告が載りました。母であり妻である彼女は、人生の盛りに亡くなったのです。私は、取り乱した夫と母親を失った子供たちを慰めるために集まっていた人々に加わり、埋葬場を訪ねました。すると、一番下のテリーという子供が私を見つけて手を取って言うのです。「来てちょうだい。」そして彼女は私を、母親の遺体が納められている棺のところに連れて行きました。「モンソン兄弟、私泣かないわ。兄弟もそうでしょ。お母さんは天のお父様のことや生きるこ

と死ぬことを何度も教えてくれたの。私はお父さんとお母さんの子供だから、またいつか一緒になれるわ。」

涙にかすむ目で、私は美しい、信仰に満ちた笑顔を見ました。小さな手で私の手をしっかりと握りしめたそのかわいい親友にとって、希望のない夜明けはなかったのです。命は墓を超えても続くという彼女のような揺らぐことのない証に支えられていれば、彼女はもちろん、父親や兄、姉たちも、そしてこの真理にあずかる人々はすべて世に向かってこう宣言できるのです。「夜はよまずが泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」(詩篇30:5)

私たちが信仰以上に強調したいのは、悔い改めの原則です。「悔い改めて、あなたがたのすべてのとがを離れよ。さもないと悪はあなたがたを滅ぼす。」(エゼキエル18:30) 古代のエゼキエルはこう宣言しています。彼の願いは、あらゆる時代のあらゆる人々が悪をやめて正しい生活に立ち返ることでした。

次はニコデモに与えた主の勧告に耳を傾けることです。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5) 私たちは、

ヨルダン川でヨハネによってバプテスマを受けた主イエス・キリストの模範を知っています。私たちは主の示して下さった道に従うべきです。

私たちはまた、聖霊を受けるために権能ある人からの按手礼が必要です。ルカはサマリヤでのピリピ人の伝道の様子をこう記しています。「エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が、神の言を受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネとを、そこにつかわした。……そこでふたりが手を彼らの上においたところ、彼らは聖霊を受けた。」(使徒8:14-17)

これらの大切な原則を教える最良の場は家庭です。家庭でこそ、それらを最も効果的に教えることができるのです。

家庭とは

雨をさえぎる屋根、
四方から吹きつける風をさえぎる壁、
寒さをさえぎる床……
それらに囲まれた所……
そう、それだけではない
赤ちゃんの笑い声、
母親の歌声が聞こえ、
父親の強さが感じられる所、
温かい心、幸せそうな目の輝き、親切な心、忠実さ、家族としての愛が感じられる所、
それが家庭です
子供たちが正義と親切を学ぶ最初の学校、最初の教会
それが家庭です
心が傷つき痛むとき
慰めを得る所
喜びを分かち合い、悲しみを和らげ
父母を敬い、愛する所、
子供たちの誕生を待ち受け、
金銭よりも愛の心が尊ばれる所、
それが家庭です
神の祝福があらんことを

(アーネスタイン・シューマン・ハインク夫人)

人生は流れ行き、子供はやがて青年となり、ゆっくりと大人に近づいていきます。遅々としたその過程を、私たちはときおり見過ごしてしまいます。人としての道を歩みながら、私たちは様々な経験から天父の助けの必要性を学ぶのです。

次の靈感あふれる思いを、常に心に留めておきたいものです。

神は父なり

人は兄弟なり

人生は道にあらず、

使命なり。

(スティープン・L・リチャーズ)

父なる神と主イエス・キリストは、完成に至る道を示してくださいました。おふたりは、私たちが永遠の真理に従い、完全になることを望んでおられるのです。

(マタイ5:48; IIIニーフアイ12:48参照) 次のように尋ねた律法学者がいました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」

イエスは言われた、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22:36-39)

使徒パウロは、人生を、はっきりした目標を目指すレースにたとえています。彼はコリントの聖徒たちにこう言っています。「あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。」(Iコ

リント9:24)

終わりまで耐え忍ぶ

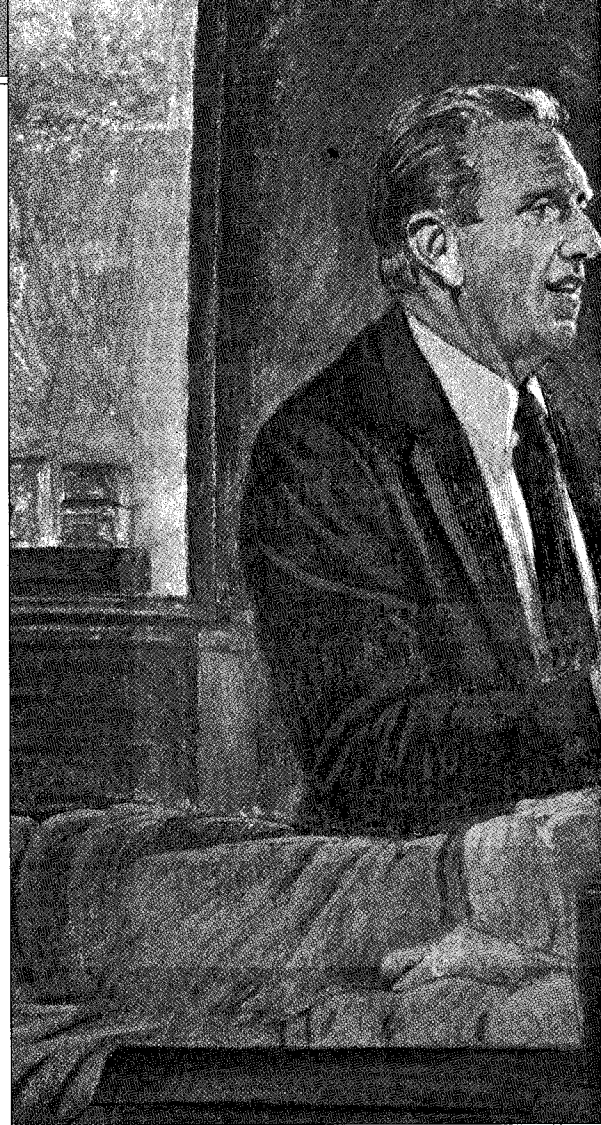
伝道の書の中のあの賢明な勧告に是非耳を傾けていただきたいと思います。「必ずしも速い者が競争に勝つのではなく、強い者が戦いに勝つでもない。」(伝道9:11) 終わりまで耐え忍ぶ者こそが、勝利を手にするのです。

人生のレースについて考えるとき、私はいつも子供時代にしたあるレースを思い出します。確か10歳の頃だったと思います。仲良しの男の子たちとナイフを手にした私は、柔らかい柳の木で小さなおもちゃの舟を作ったのです。小さな三角形の布で作った帆をかけたその舟を、私たちは流れのやや急なプロボ川に浮かし、競争させたのです。岸辺を駆けながら、私たちはその小さな舟がときには急流の中で荒々しく、深みの中で静かに帆走して行く様を見守りました。

私にはひとつの舟がほかの舟をゴールの方へ導いていっているように見えました。と、突然流れに乗った舟が大きくなうず巻の中に入ってしまったのです。舟はあつと言う間に傾き、転覆してしまいました。回転しながら流されて行くその舟は、どんなにもがいても元の流れに戻ることはできませんでした。とうとう舟は川の淵に追い込まれ、ほかのいろいろな残がいと一緒に、密生したこけのとりこになってしまいました。

子供時代に作ったその舟には、安定を保つための木材(キール)や方向舵、動力は一切付いていませんでした。そのため、舟の行く先は、抵抗の最も少ない川下しかなかったのです。

そのような舟とは違い、私たちは行く先を導いてくれる、神の属性を身につけています。私たちは人生という川に、何も付けずに放り込まれたものではありません。



ん。考え、判断し、達成する力を備えて、この世に来たのです。私たちは天の家を離れ、清く、汚れない幼な子となって地上にやって来ました。

天父は、私たちが無事にみもとに帰れるよう手段を講じられたうえで、私たちが永遠の航海に送り出してくださいました。ではその手段とは何でしょうか。そうです。祈りです。私たちの心に、細い静かな声として聞こえる、みたまのささやきです。もちろん、私たちの先駆者となって、立派に航海を果たした人々の記した聖典も見過ごすことはできません。

「私に従って来なさい」

私たちは皆努力する必要があります。では私たちにできる備えは何でしょうか。どのようにしたら望む目的地に無事に着くことができるでしょうか。

まず第1に、目的を具体的にはっきりと思い浮かべることです。ではどんな目的を思い浮かべればよいのでしょうか。予言者ジョセフ・スミスはこう勧告しています。「幸福こそ私たちの存在する目的であり、私たちの意図するところである。幸福に至る道を歩んでいるのであれば、それ自体が目的となろう。その道とは、清く正しく誠実な、そして神聖な道であり、神のすべての戒めを守る道である。」（「予言者の教え」pp.255-56）この言葉の中に、私たちがはっきりした目的とその目的に到達する道が示されています。

第2に、絶えず努力を続けていくことです。これまでに神と人との関係が最もすばらしい状態になったのは、どれも人人が何らかのふさわしい行動をしているときでした。たとえば、エマオへ向かう途中の弟子たちをイエスが訪ねた話、エリコへ向かう途中の良きサマリヤ人の話、エルサレムに戻る途中のニーファイの話などにその例を見ることができます。

死を前にした若い男性を
慰めるために、
私は、モルモン経の中から
死後の生活に関する聖句を
読んであげました。

第3に、決めた道を絶対にそれないことです。旅の途中には、分岐点や曲がりくねった道にぶつかることもあるでしょう。また信仰が試され、誘惑に出会うこともあるでしょう。しかし、楽をするために回り道をするのが必ずしも良いこととは言えないのです。なぜなら、回り道によっては、私たちが破滅へ——すなわち霊的な死へと追いやるものもあるからです。すべての面で人を脅かす道徳的な流砂を、罪のうず巻を、そして霊性のない哲学という逆流を避けようではありませんか。

第4に、賞を得るためには、進んで犠牲を払うことです。迫害者サウロがいかにか立派な伝道者パウロになったか、漁師のペテロがいかにか霊的に力を備えた使徒となったかを思い起こしてください。

私たちの長兄であられる主は、人生のレースの模範者でもあります。主は幼くして、次のような金言を口にしておられ

ます。「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。」（ルカ2：49）また成人された主は、慈悲や愛、従順、犠牲、献身といった事柄を、模範によって教えてくださいました。主は皆さんに対して、また私に対して同じ招きをしてくださっています。主はこうのように言っておられます。「私に従って来なさい」と。

死はすべての終わりか

この世にあって、私たちは足元がふらつき、笑顔が消え、病の苦痛に身を置くことがあります。すなわち、夏が去り、秋が来てやがて冷たい冬を迎えるのです。この経験を私たちは死と呼んでいます。

思慮深い人ならだれでも、次の年老いたヨブの要を得た言葉を自問したことがあるはずです。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」（ヨブ14：14）この問いだけは、どんなに払いのけてもまた押



し寄せて来ます。死はすべての人にやって来ます。おぼつかない足どりで歩いている年老いた人々に、そして人生の半ばを過ぎたばかりの人々にも死は容赦なくやって来ます。死は往々にして幼い子供たちの笑い声も奪ってしまうのです。

一体死の向こうには何があるのでしょうか。死を前にしたある若い夫であり父親である方から、そのような質問をされたことがあります。私はモルモン経を開け、アルマ書の次の言葉を読んでさしあげました。「さて死んでからよみがえる時までの霊の有様はどうであるかと言うに、ごらん、あらゆる人の霊はそれが善であっても悪であっても、この死ななくてはならぬ肉体を離れるとその霊に生命を与えたもうた神のところへ帰るのである。これは天使が私にお示しになった。

それから^{なほ}義しい人の霊はパラダイスとなえる幸福な有様、すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと

悲しみとを離れて^{やす}息む。」(アルマ40：11-12)

私たちは聖典から、イエスの遺体がまだ墓にある間、キリストご自身がひとやの霊を訪ね、教えを説かれたことを知ることができます。ペテロはこう言っています。「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。

こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。」(Iペテロ3：18-19)

イエスは亡くなる少し前に、使徒たちにこう言われました。「よくよくあなたがたに言うておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。」(ヨハネ5：25) ペテロの手紙の中にもこの

ように記されています。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きようになるためである。」(Iペテロ4：6)

イエスの体は、3日間墓の中に横たえられていたあと、再び霊を宿したのです。石が取りのけられ、復活された贖い主は、不死不滅の肉体をもって歩み出られたのです。

「その方はよみがえられたのだ」

「人がもし死ねば、また生きるのでしょうか。」ヨブのこの疑問は、マリヤとほかの人々が墓に近づき、輝く衣を着たふたりの男の人が話しているのを見たことで、はっきりと答えられました。マリヤたちが主の体に香油をぬりに来たことを悟ったふたりの男の人は、その忠実な訪問者たちにこう言ったのです。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ24：5-6)

以下にあげる3つの証を含め、復活されたイエスに対する数々の証は、私たちに大いなる慰めと知識を与えてくれます。

第1番目は、使徒パウロの次の言葉です。「キリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと……葬られたこと……三日目によみがえったこと……ケバに現れ、次に十二人に現れたことである。そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた……そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。」(Iコリント15：3-8)

第2番目は、イエス・キリストを証するもう1冊の書物、すなわちモルモン経

に記されている2,500人のほかの羊といわれる人々の証です。復活された主は、「群衆に向って言いたもうた。

『汝らわが肋あしにその手をさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ』と。

そこで群むらっている人々は近よってその手をイエスの肋あしにさし入れ、またイエスの手足にある釘あとに触れた。かれらは、一人一人みなイエスに近よってこれをなし、各々みな目で見、手で触れて、この御方が予言者たちによってこの世に来ると誌されたお方であることを確たしかに知り、また証をすることができた。

人は各々みな近よって親しくこれを見、親しくこれに触れたからみな一せいによばわって、

『ホザナよ。いと高き神の御名を讚美す』と言ひ、イエスの足下にひれ伏してイエスを拝した。」(IIIニーフアイ11:13-17)

第3番目は、ジョセフ・スミスの証です。「さて、この子羊あひくに就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』ことこれなり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因よりて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」(教義と聖約76:22-24)

すべての者に来る復活

使徒パウロはこう述べています。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと

同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(Iコリント15:22)キリストが死に対して勝利を収めたことにより、私たちは皆復活します。すなわち贖あがなわれるのです。パウロはこう書いています。「天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。

日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

死人の復活も、また同様である。」(Iコリント15:40-42)

私たちが求めているのは日の栄光であり、神のみ前に住むことです。私たちは皆永遠の家族の一員となることを望んでいるのです。確かに、私たちはそれらの祝福を手にすることができます。この世での生活の成績表がよければ、私たちは必ずや名誉ある卒業の資格が得られるのです。

また真理を知らずに世を去った人々にも道は開かれています。待っている死者に代わって、生ける忠実な人々が聖なる儀式を受けることができます。この世での生活の成績表がよければ、私たちは必ずや名誉ある卒業の資格が得られるのです。予言者エライジャが証しているように、父の心はその子らに向けられ、子らの心は父に向けられるのです。

(教義と聖約110:14-15参照)だれも拒まれることはありません。すべての人に永遠の祝福を受ける機会が与えられるのです。

私たちはどこから来て、なぜここにいるのか、この世を去ったあととはどこへ行くのか。この万人の抱く疑問は、もはや疑問ではなく、はっきりと解決されたのです。以上述べてきた真理を、私は真心からへりくだり証いたします。天父は、戒めを守る人々を喜ばれるだけでなく、

墮落した人々や気乗りのしない十代の子供たち、気まぐれな若者たち、怠慢な親たちのことも深く気にかけておられます。天父はすべての人々に、こうやさしく呼びかけておられるのです。「戻っていらっしやい。さあ立ちあがってお入りなさい。家に入って、私のもとに来なさい」と。すべての人々が、この天父の聖なる昇栄への招きに応じられることを心から願ってやみません。

ホームティーチャーへの提案

強調点: ホームティーチングのときに、以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. 聖典は、私たちがこの世に存在する理由を教えている。
2. モンソン副管長は、「信仰こそ、私たちの大切な子供たちに第一に教えるべき原則である」と言っている。
3. 幸福に関する予言者ジョセフ・スミスの言葉を復習する。どのようにしたら、それを私たちの生活に応用できるだろうか。
4. 聖典には前世における生活や、私たちが目指している来世について述べられている。

話し合いを進めるために

1. 私たちはどこから来て、なぜここにいるのか、この世を去ったあととはどこへ行くのかといった事柄に関して、あなたの感じていることを述べる。
2. 永遠の計画に関する知識は、日常生活にどう役立つだろうか。
3. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
4. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておいてはどうだろうか。

400人の名前を 終えて

ジョン・B・フィッシュ



包帯を取った母の表情に、衝撃が走りました。私もそこに目をやりました。切り傷が跡形もなく消えていたのです。

父は私が8歳の誕生日を迎える数週間前に、自動車事故で命を落としました。それから1カ月後にユタ州のセントジョージに転居したのですが、通りを隔てて美しいセントジョージ神殿がありました。

ほどなくして、母はステーク部系図委員会書記に召されました。そして神殿で死者のためのバプテスマの人数が足りないときは決まって、神殿長会のひとりから母のところへ、息子さんたちを神殿によこしてもらえないだろうかという問い

合わせがあるのです。母は決して主を拒むことをしませんでした。こうしてふたりの兄と私は、バプテスマの儀式のためによく神殿へ行ったものです。

ある夏の日、私は空き缶で手をひどく切ってしまいました。しかし私が医者へ行って傷口を縫ってもらうのはいやだと言ったので、母は私の手を消毒し、ガーゼを当てるとテープで押さえ、それから全体を包帯でくるんでくれました。

母が私の手当てを終えるか終えないうちに、電話が鳴りました。それは神殿か

らで、バプテスマを施すのに男の子が必要だというものでした。当時兄たちはとても忙しく、私だけが定期的に神殿に行っていました。その頃はもう私が代理で受けた死者のためのバプテスマの数が数千にも及んでいました。その日も兄たちは不在でしたので、私は急いで入浴を済ませ、身支度をするので神殿まで走って行きました。

私とエドワーズ兄弟は、数時間がたって400人の名前が終わったところで、その晩は終わりました。彼のことはよく覚えています。直角に曲げた腕からは、若いときの事故で指をほとんどなくした手が見えました。バプテスマがひとり終わるごとに、私をステンレスのいすに座らせて確認するのです。それからバプテスマが20人から30人に及ぶごとに、エドワーズ兄弟は私をのぞき込んで言うのです。「フィッシュ兄弟、もっとできますか。」私ができますと答えると、同じようにしてまた束になった別の名前に取り組みました。

やがて疲れきって家へ戻ると、母は私の手に巻いた包帯からしずくが落ちているのを見て風呂場へ連れて行き、傷口のガーゼを取り換えてくれました。私の方はあまりの疲労感と空腹感で、とにかく食べて眠りたいとそれだけでした。ですから手のことなど少しも気に留めず、母に包帯をほどいてもらっている間も、なされるままにしていました。

まず包帯をはずし、それからテープを、最後にガーゼを取った母の表情に、衝撃が走りました。私もそこに目をやりました。切り傷が跡形もなく消えていたのです。傷跡も、赤味すらも、何もなかったのです。

母が静かに私を抱きしめたのを覚えています。私と母の思いはひとつに重なり、共に涙したのです。私が主の神殿でなした奉仕により癒されたことを、みたまが私に証しました。

*ジョン・B・フィッシュ：現在シトラスハイツ・カリフォルニアステーク部副ステーク部長として働いている。

最後の500メートル

メルビン・リービット

ス ティーブ・デービスの家までの最後の500メートルは、ひどいこぼ道でした。そこは大通りからそれた細い私道で、沼地に通じていました。実によく雨が降る所で、そんなときは道路がまるで泥沼のようになるのです。その細い道の突き当たりまで行こうと思ったら、ステーブと父親がいつもしているように、車を止めて歩くことです。そこはかなりゆったりとしたスペースがあり、高い松の木立の間から木漏れ日をいっぱいに浴びていました。だからと言って、特別に美しいわけではありません。同じくらいきれいでもっと簡単に行ける所がざらにあるからです。とにかく、何かよほどの理由がなければ歩かないという、そんな500メートルでした。

ステーブと父親はお休み会員でした。所属の教会からもおよそ50キロも離れた所に住んでいました。50キロと、さらに悪路の500メートルです。

ステーブ・デービスと父親は、タンパベイ・フロリダステーキ部ブルックスビルワード部の会員でした。17歳の頃のステーブはしばらく教会に来ていなかったものの、祭司定員会には何人か友人

がいました。友達と結構楽しくやっていた、森でうさぎ狩りをしたり、入り江で網を使って魚を捕ったりしたものでした。一度などは小さい鮫を網にかけたこともあります。ソフトボールやバスケットボールも一緒でした。

ステーブが不活発になりかけの頃に、ステーキ部の指導者から電話がかかってきたことがありました。ステーキ部内の全部のアロン神権定員会が、特定の人を選んで活発化を図るということです。ジョー・ベッグズとビリー・マントゥース、それにデニス・ハンターから成るステーブの定員会は、だれを選ぶかで苦労はしませんでした。彼らは仲良しの友達であるステーブにもう一度日曜日出席してほしいと思ったからです。それにバスケットボールやソフトボールのチームにも彼の顔が見られないことを、寂しく思っていました。

ステーキ部の提案では、定員会は選んだ人を少なくとも週に一度は訪問するよということでした。それは別にかまわないのですが、50キロの運転、それにあの悪路の500メートルがありました。しかしそれすらも、この若人たちには大し





深くてやっかいなぬかるみも、
祭司定員会の若人たちが、
責任を果たそうとする気持ちを
押しとどめることは
できませんでした。

た問題にならなかったようです。そこで細道までの50キロと、彼の家までのぬかるんだ500メートルを、毎週はるばる出かけて行きました。細道の所は大抵歩いて行きました。ときにはその500メートルを車で行くという冒険に出たこともあったのですが、それは地面が乾いている場合でした。

スティーブはいつかは教会に戻りたいと思っていたのですが、しばらく離れていると、なかなか簡単にはいきませんでした。それでも友人たちが顔を出すたびに、だんだん戻れそうな気持ちになっていくのでした。

訪問する側も大変でした。ビリー・マントゥースは当時を振り返ってこう言います。「本当に悪魔が働きかけているような気がしたほどです。いつも何かしら問題が持ちあがって、彼の家に行けないような気がするのですが、とにかく行くことに決めるのです。スティーブの家に着くのが夜の10時を回ってしまいそうなこともあったのですが、とにかく行きました。」

そこに行くことが彼らの愛をスティーブに示すことになっても、それが集会に出席するよというプレッシャーになることはありませんでした。「みんなが寂しがっているとは言いましたが、無理に來させようというわけではありませんでした。」スティーブもそう思い出を語っています。

この若人たちが本当にスティーブのことを心にかけていたのだということは、火を見るよりも明らかでした。ある晩のこと、雨の中をひどいぬかるみもいとわずに、路地の中まで車を走らせたのです。でも彼らの行動はあまり正しいとは言えなかったかもしれません。家まで行くことは行けたのですが、帰りに車がスリッ

プして深いぬかるみにはまり込んでしまいました。スティーブと父親も出てきて手伝い、やっと脱出できたのは朝の3時頃でした。全員が泥人形のような顔のようです。あまりの汚さに、服を脱がないと車に乗れないほどでした。でも、皆の泥だらけの顔からのぞいた白い歯がとても印象的でした。その晩、4人の若者は下着のままで車に乗って家にたどり着きました。とても疲れていましたが、幸せでした。スティーブの態度に変化が現われてきたからです。そして次の週もまた行きました。たったの500メートルに負けるような若者たちではありませんでした。

スティーブも幸せでした。忘れられないあの晩から間もないある日曜日、スティーブはついに教会に姿を見せました。父親も一緒でした。初めの頃は来たり来なかつたりの状態でしたが、昔のように出席する習慣に戻るまで、友人たちは訪問を続けました。

スティーブは語っています。「みんなを愛しています。彼らにいつも感謝しています。彼らがいなかったら、ぼくはまだ不活発だったと思います。彼らの行ないのおかげで、ぼくの生活はまったく違ったものになるのです。」

500メートルの道は決して長いものではありません。50キロの距離を運転することに比べたら特にそうです。しかしその最後の500メートルが、50キロ進むのを妨げてしまうのです。私たちの多くが、その500メートルを、仕事を明日に、あるいは翌週に、はたまた雨が降りそうもないいつかに引き延ばそうとする口実にしてしまうのです。スティーブと父親は、距離にして500メートルという特別な努力を払ってくれた友人たちに、これからも感謝を忘れないことでしよう。

新讚美歌

起て聖徒ら神殿へ

断固として

♩=72-88

1. た て しん でん に は い — い り く
 2. しよ う えい の け け は い — い か く
 3. エ □ ヒム つ く り — め し

み ち を た ず ね よ せ い — じゃ と
 ま な を た づ ね よ せ い — や と
 み な を た づ ね よ せ い — と くら

し しゃ — と を と わ に む — す ば ん
 ま も — り て と し ゆ く に ふ き — す ば け ん
 み や — に て は た ら き — さ さ げん

作詞：ジョン・L・ケイベリー (1918—) ©1985 LDS
 作曲：ロバート・P・マヌーキン(1918—) ©1985 LDS

教義と聖約 109:13-21
 教義と聖約 132:46

起て聖徒ら神殿へ

一、起て神殿に入り 道を尋ねよ
 生者と死者とを 永遠に結ばん

二、昇栄の計画 学びて常に
 誓約守りて 祝福受けん

三、エロヒム創り主 聖徒ら宮にて 働き捧げん
 聖徒ら宮にて 働き捧げん

300人の証がひとつとなって

タバナクル合唱団

ジャネット・ピーターソン

日曜日の朝、300名余りの男女が、モルモンタバナクル合唱団のラジオおよびテレビ番組「ミュージック・アンド・スポークンワード」で歌うため、ソルトレーク・シティ、テンプルスクウェアのタバナクルに集まります。教師、主婦、医師、翻訳家、広告会社マネージャー、秘書、コンピュータープログラマーなど、様々な職業の人たちです。彼らにひとつ共通なのは、世界に名高いその合唱団に加わっているということです。

モルモンタバナクル合唱団の母体は、モルモンの開拓者が1847年、ソルトレーク盆地に到着して間もなく結成された合唱団です。当初合唱団は、集会のときにはテンプルスクウェアの木陰で歌っていました。10年後に、パイプオルガンを備えたアドービレンが造りのタバナクルへ移りました。そして1867年、今も有名なテンプルスクウェアのタバナクル完成と同時に、そこを根拠地とし、タバナクルをその名称としました。

毎週の放送が開始されたのは1929年です。それから57年後の現在は、放送史上最長のラジオ番組となりました。6月末には、2,967回の日曜日を数えることになります。中断されることがなければ、1987年2月には、3,000回に達します。合唱団は、1929年の放送開始以来、世界各地の人々に美しい歌声と霊的な励ましを送ってきました。

毎週、特に夏の旅行シーズンには、タバナクルで合唱団の歌声を間近に聴くことができますが、テレビ、ラジオを通じ



●1867年以来合唱団の本拠地となったソルトレーク・タバナクルで指揮台に立つジェロルド・オトリー兄弟

て聴く人の数が圧倒的に多いのは、合衆国とカナダは一般向けに、また合衆国軍ネットワーク、そのほか世界中のラジオネットワークを通じて放送されているためです。

レコードアルバムとコンサート旅行により、合唱団の歌声はさらに大勢の耳に届きます。それが合唱団の維持費ともなっています。合唱団運営の経費は教会から出しておらず、レコードの売り上げと公演の入場料や寄付でまかなわれているのです。

発行された50余りのレコードアルバムは、40カ国以上で売られています。そのうち5つは50万部以上の売り上げを記録し、合衆国のゴールド・レコード賞を受けました。100万部を売った最も人気の高いアルバムは、クリスマスキャロルを集めた「ザ・ジョイ・オブ・クリスマス」です。

合唱団はレコード、ラジオ、テレビ以外に公演もします。1893年のイリノイ州

シカゴにおけるコロンビア・エキスポへの初めての公演旅行以来、その旅は世界に及んでいます。最近では、1979年と1985年に日本、1955年、1973年、1982年はヨーロッパ、1980年にブラジルを訪れました。合衆国やカナダ各地を巡り、3回の合衆国大統領就任式や、スポーケン、ニューヨーク、モントリオールの世界博、そのほか数多くの音楽祭や特別行事に出演しています。

1984年に衛星中継で世界に放映されたオリンピック前の特別テレビ番組では、合唱団が「我が国の宝」と紹介されました。

定期演奏として最も有名なのは日曜日の放送ですが、それだけではありません。1975年以来合唱団の指揮者を務めるジェロルド・オトリーは、「日曜日の放送のあと、残りの1週間は何をしているのですか」とよく尋ねられるそうです。オトリー兄弟はこう答えます。「日曜日の放送は一番人目に触れますが、私たちはコンサートをします。レコーディングもありますし、それらが実現する前のプラン作りにも時間がかかります。」彼は週に60時間から65時間ほど、合唱団の仕事に時間を使います。「テレビやラジオ、新聞、雑誌との折衝が多いですし、350人近い団体を相手に働いていると、人事面の仕事も多いのです。おまけにいつも新しい団員を探したり、オーディションをしたりもしています。それがけっこう時間を取るのですよ。」

タバナクル合唱団はときに、「教会最大

の伝道手段」と言われます。オトリー兄弟も同じ意見でしょう。彼は「教会内外のあらゆる場で教会を代表する大使」となることを合唱団の主要な役割と考えているからです。その第一の責任は教会内に向けてではなく、教会の外に向けられています。

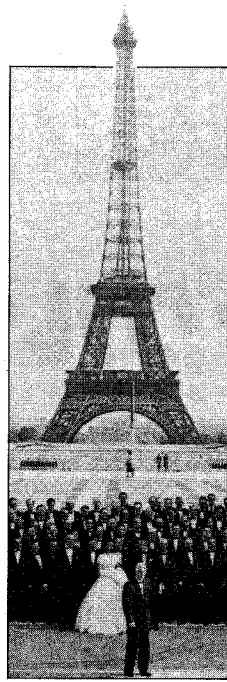
「私たちは教会の宣教師団です。伝道について表だって活動をすることはありませんが、でも確かに伝道をしていると思います。たとえ私たちにできることが教会に対する否定的な感情を和らげるだけだとしても、それは大事だとよく思うのですよ。教会をもっと客観的に見つめ、それを通して真理を理解することができるような雰囲気を作る責任を感じることでよくあります。」

合唱団の宣教師としての働きを立証したのは、1985年8月の日本への公演旅行でした。団員は個別で伝道に力を入れ、1,000部以上の日本語のモルモン経を配布しました。合唱団のパンフレットを3,000枚以上、信仰箇条のカードもおよそ3,200枚配りました。

「公演から2カ月して、アジア地域会長会の会長であるウィリアム・R・ブラッドフォード長老が、団員の差しあげたモルモン経が契機となったバプテスマがいくつかあると教えてくださいました」とオトリー兄弟は語っています。「私たちの音楽を通じ、あるいは個々の接触を通じてどれだけの人々に影響が及ぶのか、本当のところは私たちにわかりません。

日本で、それまで何カ月も福音を勉強してきて、コンサートのその晩にバプテスマの決心がついたというご婦人にお会いしてお話をする機会がありました。私たちの仕事で一番うれしいのがそれなのです。私たちは生きた音楽、すばらしい音楽を提供したいと思っていますが、もしその音楽を通して人の心と霊に触れ、イエス・キリストの福音について私たちと同じ気持ちを感じていただけたら、私たちは満足です。そんなとき、なすべきことをなしているのだなと思うのです。」

その一例ですが、1985年の公演旅行のときにマリリン・スミス姉妹はひとりの日本女性を紹介されました。彼女は前回の日本公演でマリリンが歌ったソロに霊



●1955年のヨーロッパ旅行の際の写真。パリでは国外からの有名な催しがふたつ重なった

感を感じ、そのおかげで教会に入り、伝道を終えたばかりだと言うのでした。

団員は「主の合唱団」で歌うことを喜んでいます。10年間歌い続けてきたダフィー・ウタド姉妹は思い出をこう語ります。「ワシントン神殿訪問者センターの献堂式で歌ったあと、スペンサー・W・キンボール大管長があいさつをしてくださり、握手をしてお礼を言われました。そのとき、私はとても重大な決心をしようとしていました。個人的な問題があるため合唱団をやめるのが一番いいことだと感じていたのです。私がキンボール大管長の前に出ますと、大管長は私の手を握って、『これは主の合唱団です。主はあなたにここで歌ってほしいと思っておられますよ』とおっしゃったのです。私は自分が問題を抱えていることを大管長にお話ししたことはありませんでしたが、キンボール大管長はちゃんとご存じだったのです。列のまわりの団員には、ただ握手をして、こんにちはとかありがとうとか神様の祝福がありますようにとかおっしゃるだけでしたのに。私のところではあのようにおっしゃいました。いつまで

も忘れられません。あのお方は確かに神の予言者です。私の祈りがあのような形で答えられて、胸がいっぱいです。」

合唱団で知り合ったダフィーとビクター・ウタドの友情は育まれ、やがてふたりは結婚しました。夫婦で歌うことは留守中の家族に負担をかけますが、「すばらしい経験」です。ウタド夫妻は、ビクターと同様にペルーで教会に加入した彼の母親が同居することで、その問題のほとんどを解決しました。ビクターとダフィーがリハーサルや公演に出る間、その母親がふたりの子供の世話をしています。

合唱団に12年在籍するメキシコ系のエドナ・アルバ姉妹は、合唱団を「大きなひとつの家族のよう」だと感じています。団員たちとの交流が楽しみなのです。彼女はオトリー兄弟の中に、「霊性と音楽的手腕とユーモアの絶妙なバランス」を見えています。

オトリー兄弟は団員たちを代弁してこう言います。「胸の高鳴るようなすばらしい活動がいろいろある中で、一番楽しいのは何と言っても4月と10月の総大会で



●1935年7月、合唱団はカリフォルニア州サンディエゴで開催されたカリフォルニア・太平洋国際博に招かれ、7日間1日2回の公演をした。ソルトレーク・シティーから一行を乗せて来た汽車の前で、副指揮者のアルバート・J・サウスウィックとカメラに向かう女性団員たち

歌うことです。自分たちはふさわしい雰囲気を作るために加わっているのだ、大会の靈性を盛りあげているのだと感ずるのです。」

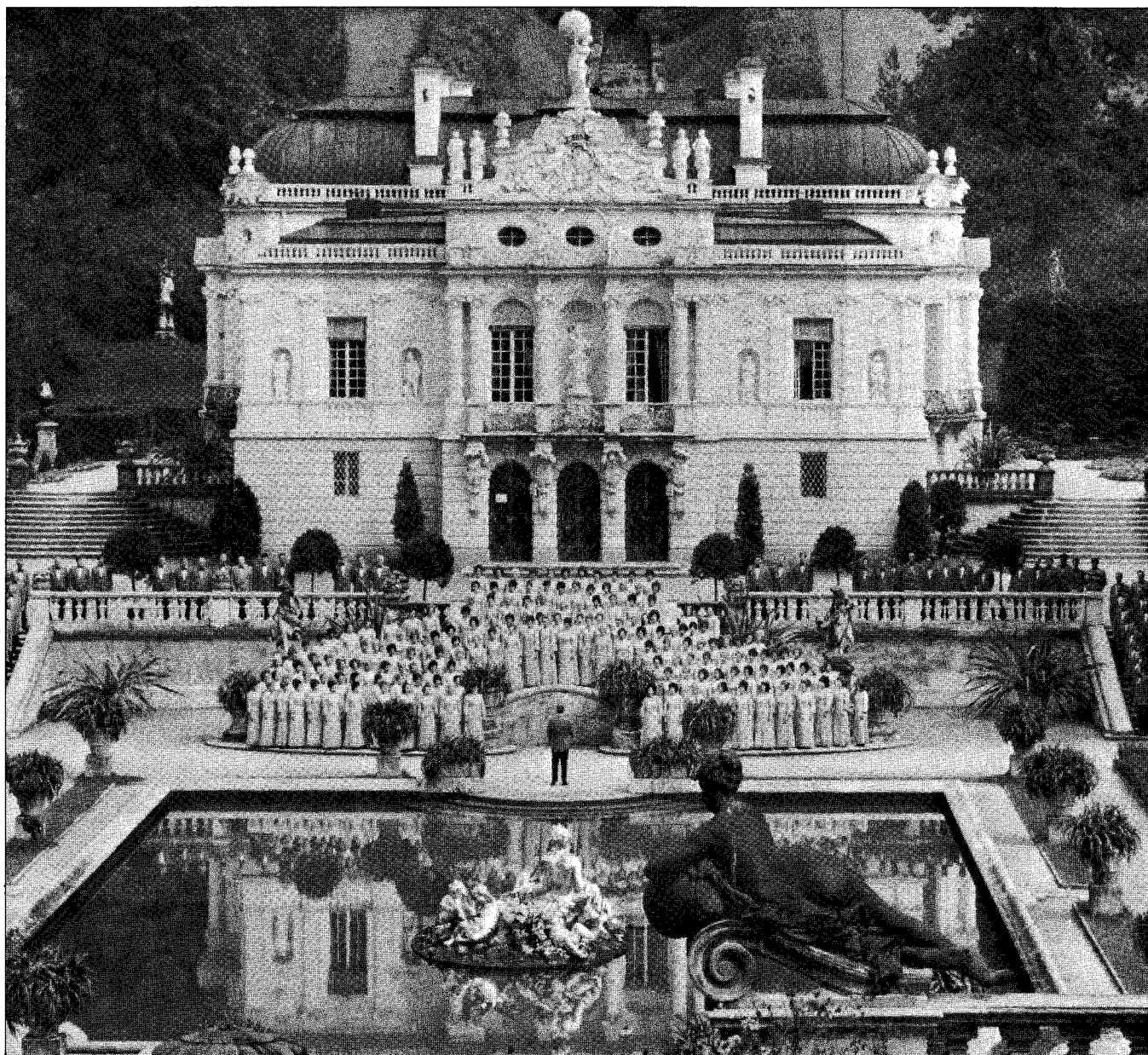
友人や仲間ジェリーと呼ばれているジェロルド・オトリー兄弟は、非凡な指導者です。音楽的才能にたけた彼は、対人関係についても才能に恵まれています。彼は集団力学に通じており、「自分で努めていることのひとつですが、団員をファーストネームで呼べるようにしていますよ。大事なことだと思うので、一生懸命ですよ。団員も、300人以上もいるグループのほんのひとりですから、大勢

の中では責任感も薄れがちです。しかし、廊下で特定の人に質問をしたり、みんなに名前呼びかけたりできれば、私に対してだけでなく、組織全体に対しても一層の責任を感じると思うのです。」

個々の団員に寄せるオトリー兄弟の関心は、300倍になって返ってきます。マリリン・スミス姉妹が語っています。「オトリー兄弟は団員からとても愛されています。皆さんに好感を持たれています。音楽家そのものといった感じで、歌う音楽について非常によくご存じです。指揮は完璧ですし、とっさのウイットで私たちの緊張をほぐす才能もお持ちなんです

よ。」

オトリー兄弟はユーモアの価値を知っている人で、その場の状況だけでなく、自分自身をも笑い飛ばす才能に長じています。彼はこう言います。「一緒に歌っていて楽しい時間が多いですよ。おもしろおかしい時間がある、猛練習も息がつけるのです。これほど大勢のグループを相手にしていると、自分がジョーク的になるか場の中心になることが実にいいやり方だとわかりましたので、皆さんと一緒に笑うことがしょっちゅうです。」「よくやることなんですが、私が間違っただけかなことを言ってしまう



●1973年のヨーロッパ旅行では、ボバリアのラドウィグ王の城が優雅な舞台となった



●当時のスロースピード・カメラに向けて静止のポーズをとるタバナクル合唱団。背景は、1911年ニューヨーク市への公演旅行で立ち寄ったオハイオ州カートランド神殿。改装されたこの神殿は、現在、復元末日聖徒イエス・キリスト教会の所有、管理下にある

のを、団員たちが楽しみにして待っているんです。彼らは決して見逃しませんよ。」

オトリー兄弟が今でも思い出すたびに笑ってしまうのは、数年前にユタ大学の卒業式でユタ・シンフォニー・オーケストラと共演したときの出来事です。ふたつのグループを指揮しているときに、「どうしたわけか指揮棒を飛ばして、それがオーケストラをきれいに飛び越え、合唱団のまん前に落ちたんです。とにかく演奏を続けていると、オーケストラのメンバーが足で順送りにして指揮棒を私の方へ寄こしてくるんです。首席ピアノ奏者が拾って私に手渡そうとするのですが、演奏はやめられないととっさに気づいたのでしょう。落としてしまいましたね。次にコンサート・マスターが拾いあげて渡

してくれました。ところが、ちょうど合唱団に肝心な導入部のキューを送るところだったものですから、クスクス笑いが起きて、あやうくタイミングをはずすところでした。」

「それで話は終わりません。翌日その卒業式に出ていた私の弟が、指に指揮棒をくっつける方法を書いた使用書と一緒にチューブのりを私にくれました。そのまた翌日には、ひとりの団員が、指揮棒を穴からつつこめるようにして指穴を空けた手袋をプレゼントしてくれました。数週間あとには、女性団員がリハーサルを途中でストップさせて、リハーサルのときも大抵大勢の観客がいるのにですよ、私のところまで来て言うのです。『オトリー兄弟、続ける前にするべきことがございます。』彼女は団員を代表して私にプレ

ゼントを渡すと言うのです。そこで皆さんの前で開けることになりました。中身は、1本なくしてもすぐさま次のが取り出せるようになっていて、指揮棒をたくさん入れた矢筒だったんです。」

有能なオトリー兄弟は、献身的な指導者としての伝統を引き継いでいます。前任者のリチャード・P・コンディー兄弟は合唱団の副指揮者を20年、指揮者を18年務めました。コンディー兄弟の前はJ・スペンサー・コーンウェル兄弟で、22年間合唱団の指揮を取りました。

合唱団に欠かせないのがオルガニストです。現在はロバート・カンディック、ジョン・ロングハースト、クレイ・クリスチャンセンの各氏で、53年間タバナクル合唱団オルガニストとして広くその名を知られたドイツ生まれのアレクサンダ

一・シュライナーは1977年に引退しています。

ソルトレーク・タバナクルで、例年の大管長会クリスマス・ファイヤサイドに参加するにしろ、合衆国大統領就任式で歌い、宗教とは無関係な音楽祭に出場し、あるいは毎週の音楽放送で歌うにしろ、モルモン・タバナクル合唱団の音楽には、訓練を重ねた美しい歌声と洗練された無数のレパートリー以上の大きなプラスアルファがあります。そうです。大勢の聴衆の心を打つものは、実に「主の合唱団」に音楽を通じて凝集された、福音に対する300人の証なのです。



●1976年、アメリカ建国200年祭に参加した合唱団はニューヨーク市を訪れ、ジョージ・ワシントン大統領が1798年、就任宣誓を行なった連邦本部の階段で歌った

500名の移動

500名からなる合唱団関係者は一体どのようにして、ソルトレーク・シティからヨーロッパや日本へ移動するのでしょうか。容易なことではありませんが、そこには団長のウェンデル・M・スムート兄弟、ビジネスマネージャーのユーデル・E・ポールセン兄弟の入念な計画があります。普通は公演旅行の2年前から計画を立て始めますが、1985年8月の日本公演の場合は事前の通知が遅かったため、1年半しか準備期間がありませんでした。また、8月は航空会社が込み合う時期であるため、ソルトレーク・シティから大阪までのチャーター便は確保できませんでした。そこで一行は4つのグループに分かれて西海岸の町まで飛び、さらに飛行機3機に分乗し、大阪経由で東京へ行きました。こうして、自費で加わった伴侶らを同伴した300名の団員とマネジメントや技術のスタッフがようやく大阪に到着すると、次は宿泊のためにホテルの部屋が297室必要でした。ポールセン兄弟によれば、1,000個にのぼる一行の荷物の振り分けがいつも「最大の難事業」だそうです。しかしきめ細かな計画と事前の練習によって、各部屋に宿泊者の荷物が間違わずに届く方法は効を奏しました。

団員が公演旅行を楽しみにし、音楽を通じて福音を広める機会が増えることで、計画も努力も十分に報われてなお余りある、と彼らは語ります。



●(左)1985年の大阪訪問に際して、日本の伝統衣装を着た団員の姿は、新しい友人たちを喜ばせた

●(下)1985年のつくば万博エキスポプラザの公演は、背後に備え付けられたジャンボテレビスクリーンにも映し出された(リハーサル風景から)





バニヤン・ダッドソン： ガーナで福音を 見いだす

ローリー・ウィリアムズ・ソービー

アフリカの小さな国、ガーナでは、バニヤン・ダッドソンのような人物はまれにしかいません。彼は高等教育を受けているばかりでなく、この国では比較的新しい教会である末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でもあります。ダッドソン兄弟は初めは化学教授でしたが、現在はガーナのケープコースト大学の副学長です。

約6年前に改宗したダッドソン兄弟の夢は、中央アフリカの地平線に神殿の尖塔がそびえ立ち、たくさんのアフリカの人々が教会員になる日が来ることです。ガーナの教会員数はすでに2,000人以上で、毎週50人の割合でバプテスマが施されています。ダッドソン兄弟はこの様子を簡潔に説明しています。「教会はアフリカの人々の必要を満たしているのですよ。」

バニヤンは少年の頃、メソジスト派の礼拝で、説教を全部暗唱してしまうほどで、子どもたちの間では「牧師さん」と呼ばれるようになりました。たくさんの疑問への答えを得られず不満な気持ちになると、よくほかの教派の集会に行った

ものでした。しかし、そこでも神の慈悲によってのみ救われるという教義がどうしても受け入れられませんでした。行ないのない信仰という概念が納得できなかったのです。ダッドソン兄弟はこう語ります。「だれでもクリスチャンであるならば、主に信仰を持っていることを行ないによって表わさなければならないはずで

す。」
22歳のとき、バニヤンは以前の団体から離れて別の宗教団体に入りました。それからの8年間、その教会は彼が必要としていた精神的な支えを与えてくれました。そしてその間に、彼は有機化学の学士、修士、博士の課程を修めていったのでした。ダッドソン兄弟は思い出します。「あの教会でもアルコール、タバコ、不道德なことを禁じていましたし、そういえばジョセフ・スミスの体験に類似した話までありましたよ。」

ダッドソン兄弟は英国のケンブリッジ大学で博士号を取得すると、ガーナに戻ってきてケープコースト大学の化学教授に就任しました。それからの10年間というものは、研究活動に結婚、子供の誕生など多忙で、どんな宗教団体にもかかわることがありませんでした。この時期に

彼はビリー・ジョンソンという牧師と知り合いになりました。このジョンソンという人は、たまたま手に入れたモルモン経をもとに、公式な権限もなく末日聖徒イエス・キリスト教会を発足させたのでした。バニヤンは集会には出席してはいましたが、礼拝行事の一部として行なう種族の太鼓や踊りを受け入れることができませんでした。

8年たって、ビリー・ジョンソン氏はダッドソン兄弟にモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠、福音の原則を寄贈し、ついで、自分が組織した教会も末日聖徒の宣教師が来て、今度は神権の力によって再建されたのだと知らせてくれました。ジョンソン兄弟はバプテスマを受け、最初の地方部長に召されました。

バニヤンはもう一度、その新しい宗教に取り組んでみることにしました。今度は讚美歌がテープから流れる末日聖徒の普通の聖餐会せいさんかいに出席しました。彼は福音を学ぶにつれ、求めていた教会が見つかったという思いを実感しました。彼は6人の子供のうち上の4人の子供たちと共にすぐにバプテスマを受け、2、3週間後には妻のヘンリエッタもバプテスマを受けました。

ダッドソン兄弟は朝5時に家族を起こし、祈りと聖典勉強をするなど、家族と



●ダッドソン家族(左からふたり目がバニヤン兄弟)

共に過ごす時間が多くなりました。それによって家族にもたらされた結果は、目を見張るものがありました。

彼は心境をこう語ります。「おたくのお子さん方は驚くほど良い子になりましたねえ、とよく言われたものですよ。」この変化に気づいた彼の兄弟たちもすぐに教会に入りました。クワメナ・ダッドソン兄弟は現在、ケープコースト支部長を務め、妹さんのエリザベス・クウォー姉妹は扶助協会の会長をしています。

ダッドソン兄弟はバプテスマを受けて数カ月すると、支部で最初の長老定員会会長に召され、1982年の春にはガーナ地方部の第二副地方部長に召されました。

ダッドソン兄弟は教会員になったおかげで仕事も成功したと考えています。1981年に彼は大学の学部長に任命され、1985年に副学長になるまで、その職を務めました。彼は適確に時間を管理したり、才能や行動力を効果的に発揮させたり、良い対人関係を築けるようになったことを掲げてこう言っています。「私は教会のおかげでより有能な教師、そして指導者となることができました。」「職員と接するときに、愛を示しなさいというキリス

トの律法が実に役立ちました。」

仕事や家庭がうまくいくようになったのはもちろんのこと、福音によってまた別の祝福ももたらされました。「以前は不安なことばかりありましたが、それらもう消え去ってしまいました。私には確固たる自信があります。それは主に守られているからです。」

1983年の夏、ダッドソン兄弟はブリガム・ヤング大学の客員化学教授として、2カ月間を過ごしました。以前にフルブライト交換教授や国務省の招待客としてアメリカの様々な大学で講義をしたことはありましたが、ユタ州への旅はそれが初めてのことでした。

家族はガーナに残りましたが、ダッドソン兄弟は2カ月間の滞在中、プロボ神殿に行き、自身のエンダウメントを受けることができました。そのときからずっと経済的な理由のために、まだ家族を神殿に連れて行く機会に恵まれていませんが、「妻や子どもたちを神殿に連れて行って結び固めを受けるまでは落ち着かない

でしょうね」と彼は言います。

ダッドソン家の子供たちは10歳から21歳までいますが、皆、支部での活動を楽しんでいます。その活動内容は演劇を含めた現住民の踊りやサッカー、そしてとうもろこしや大豆、野菜などを栽培している福祉農場を手伝うことです。

地元の人々の食糧や日用品の供給に関連して、ダッドソン兄弟は西アフリカ(ガーナ)友好委員会の仕事もしています。この事業内容は、医薬品を取り寄せたり、病院や診療所、村々に配送することです。

ダッドソン夫妻はガーナにとどまり、教会の発展のために尽くしたいと思っています。そして、子供たちも同じ道を選んでくれることを望んでいます。

*ローリー・ウィリアムズ・ソービー姉妹はフリー・ライターで、ユタ州アメリカンカンフォークワード部の日曜学校教師を務めている

主を信頼せよ

どのような決定でもそうだが、特に重大な決定の場合は
信仰をもって祈り、主に頼れば楽にできる

七十人第一定員会会員

ジーン・R・クック

私はこのすばらしい時代に生きる若い人々にお話ししたいと思います。神様はご自身の目的を果たすために皆さんを育てておられるのです。皆さんは今や、自分自身の人生を決める重要な発見や決定をすべき時期にさしかかっています。発見というのは、自分自身と自分の可能性を見つけることであり、決定には、伝道に出ること、学校や職業の選択、永遠の伴侶を見つけ、神殿で結婚することなどが含まれています。これから皆さんがこれらの大切な発見や決定をする際の助けとなる4つの実話を紹介します。

あなたの神の子としての可能性を信じなさい

あなたは自分の可能性をどのように見えていますか。人の心には限りがありません。あなたは神の息子あるいは娘なのです。私たちは皆、天父に似せて造られたのです。

数年前にひとりの若い男性（仮にジムとしましょう）は、中学1年生でした。ジムはほかの子よりも背が高く、バスケットボールやトラック競技がとても得意でした。しかし学年が進むにつれて、バスケットボール・チームのコーチはこう言うようになりました。「ジム。座っていなさい。ゲームに出るのは無理だな。不器用なんだよ、君は。」ある試合のときにはさらに次のように言いました。「もう君は試合には必要ない。そこに座っていなさい。君は走れないし、シュートもできないし、足も速くないからね。」そのようなことが何カ月も続き、ジムは、自分は

言われたとおりの人間だと思い込むようになってきました。彼は教会でもバスケットボールをしなくなりました。走ることもやめてしまいました。高校時代にはスポーツはできる限り避け、大学1年のときには、必修の運動以外、スポーツはほとんどしませんでした。

19歳になって、彼は遠い国に伝道に出かけました。そこではバスは乗客の乗り降りのために停車しませんでした。ですから宣教師たちはまず走りながらバスに乗ることを学ばなければなりませんでした。

ある日の午後、ジムと同僚はバス乗り場から少し離れたところを歩いていましたが、すでにバスはすぐそこまで来ています。同僚は言いました。「走ろう、次の集会に間に合わなくなる。」驚いたことに、バス停までの競走でジムは同僚を追い越してしまったのです。その日の午後遅く、ジムは同僚に頼んで同じようにバス停まで走ってみました。そのつど彼は同僚に勝ったのでした。

その結果にジムは驚き、とても信じられませんでした。同僚は陸上の短距離では州のチャンピオンで、各種の賞を受けていたのです。その彼にジムが勝ったのです。そんなことがあり得るのでしょうか。ふたりはもう一度走りましたが、やはりジムが勝ちました。

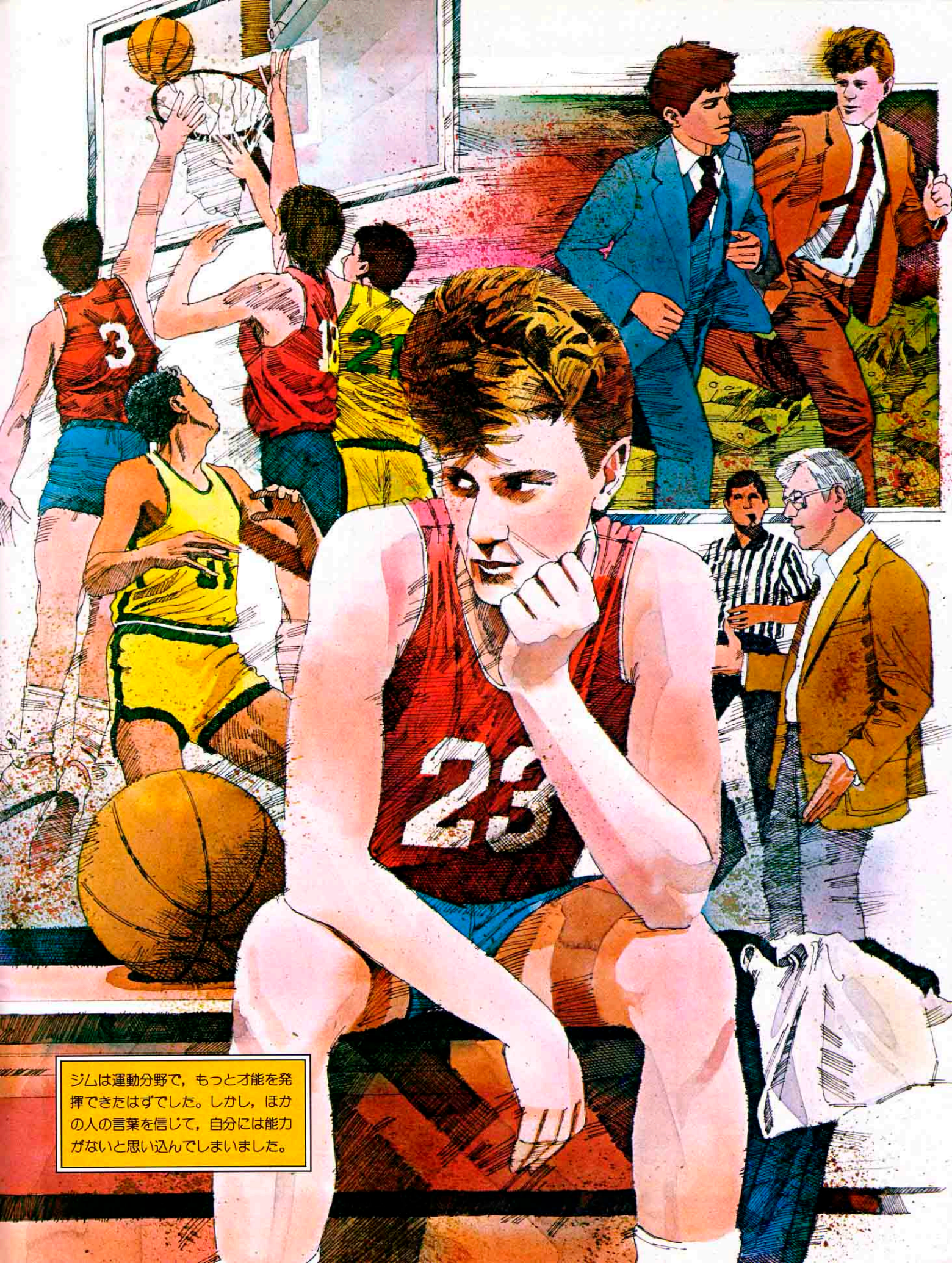
突然ジムの心には、せっかく与えられた運動能力を十分活用してこなかったという強い後悔の念がわいてきました。彼は運動分野でもっと才能を発揮できたはずでした。しかし、ほかの人の意見を信

じ込んでしまったのです。ジムは今までの自分の消極的な態度についても深刻に考え始めました。たぶん、それも間違っていたのだらうと思えてきたのです。

私は皆さんにもジムと同様に、自分の本当の才能を知ってもらいたいです。だれかがあなたに対して、「音楽（数学）の才能は全然ありませんよ」とか「それは君には荷が重すぎる」とか言っていますか。私たちにはみんな偉大な賜が与えられているのです。ところが、私たちの多くは自分の可能性に対して否定的な態度をとってしまい、そのことにより自分自身を厳しく制限してしまっているのです。

主は次のように言われました。「人となりはその心に思うそのままであるからだ。」（欽定訳箴言23：7）さらに「信ずる者には、どんな事でもできる」（マルコ9：23）とも言われました。あなたは自分自身で信じ、考える以上の人物にはなり得ないのです。

主を信頼してください。主はあなたが自分自身でその存在に気づき、使い始めた賜をさらに伸ばしてください。文字どおり私たち一人一人には天賦の才能が隠されています。「あなたには才能がない」という人の言葉を信じてはなりません。ジムは伝道地で本当の自分自身を見つけ出したのです。主は、「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだす」（マタイ16：25）と教えられたではありませんか。自分自身を発見してください。あなたがまだ伝道に出ていないので



ジムは運動分野で、もっと才能を発揮できたはずでした。しかし、ほかの人の言葉を信じて、自分には能力がないと思い込んでしまいました。

あれば、伝道に出てください。主に仕えようとするれば、あなたもまた自分自身を見いだすことでしょう。

「われ今すべての人々に就きて、この召と誠命とを汝に与う。……諸々の国民の中に永遠の福音を宣べんために遣わさるべし。……悔改めを叫びてかく言うべし。」(教義と聖約36：4-6)

みたまの働きかけを信頼なさい

別の少年の経験を話しましょう。名前はビルとします。ビルが大学1年生で18歳のときのことでした。彼は奨学金を受けており、良い成績を得ようと神経質になっていました。そこで彼は弁論の科目なら簡単であろうと考えて、そのクラスに登録しました。ですからそのクラスの先生が、「私のクラスでAを取った人は、過去25年間で5人だけです」と語るのを聞いたとき、彼は目の前が真っ暗になるのを覚えました。別のクラスに移ろうとしましたが、遅すぎました。それから何カ月もの間、彼は、BかBマイナスの成

績で、たった一度だけBプラスの評価を受けたほかはAを取ることはできませんでした。彼は気落ちしました。

やがて最終評価の半分を決定する学期末の弁論試験が迫ってきました。課題は、論争的となるような話題を選び、それを弁護する立場から25分間話します。ほかの学生たちはその話に対して口頭で批判することができ、各生徒は批評文を書いて提出することになっていました。

試験の日が近づいてきても内容が決まらなかったため、ビルは祈りました。すると、「モルモン経を話題にしてください」という思いがわいてきました。

ビルは恐れました。クラスで教員は彼ひとりだけだったからです。教師はプロテスタント教会の活発な会員であり、授業の中でも聖書からの引用を行ない、聖書が神から人類に与えられた唯一の啓示であると考えていることは明白でした。

発表当日、ビルが弁論のテーマを発表すると、クラス中しんととなりました。周りの人たち、特に教師の気分を害さない

ように注意しながら、彼はモルモン経について歴史的、学問的観点から話し始めました。およそ半分くらい話が進んだときに、みたまが彼に、次のように働きかけました。「この本について歴史的観点のみから話すのは十分でない。」ビルは考えました。「みんなが自分のことを何と思おうと、自分の成績がどうなろうと構わない。モルモン経は真実なのだから是非このことをみんなに知らせなければ。」

彼は自分がステーク部宣教師のときに求道者に教えたように話し始めました。こうして彼は何度か証を述べたばかりか、イエス・キリストのみ名によって発表を終えたのです。

彼は反論を待ちました。ところが驚いたことに、学生たちからはひと言もありませんでした。教師はみんなに反論するように促しましたが、だれも何も話しませんでした。待ちきれなくなった教師は、ビルに座るように命じました。

生徒からの批評はすべて良好でした。4、5人のレポートには、「君の話したこ



ビルは、弁論クラスのだれもが気分を書さないことを願いつつ、弁論のテーマがモルモン経についてであることを発表しました。

とは真実だと思う」とさえ書かれていました。ほかの学生の発表に対し常に批判的だった人でさえも、次のように書いています。「君の教会についてもっとよく知りたいと思う。」

大変うれしいことに、彼はクラスの中でただひとりAの評価を受けました。しかし、仮にAの評価を受けなかったとしても、彼はみたまの声に聞き従ったことにより、祝福されたことでしょうか。主は私たちに「いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても」（モーサヤ18：9）神の証し人になるように命じておられます。確かに主は信仰を持ち、「福音を恥としない」（ローマ1：16）人々を祝福されます。

こうした経験をしたことのない人でも、いずれこの若者と同様に世の試練に直面することでしょう。そのときのあなたの信仰はどの程度のものでしょうか。あなたが下す決定、特に結婚や伝道、学業、職業などの重大な決定は、みたまの導きに従うことによって、もっと容易に下すことができるでしょう。

戒めを守りなさい

私たちは常に戒めに反しない決定をしなくてはなりません。従うということは、主の知恵と私たちに対する愛を信頼することです。もうひとりの若い男性（名前をフレッドとします）の例を紹介しましょう。フレッドは11歳のときに新聞配達の仕事を始め、購読拡大の実績もあげていました。新聞店の主人は教会の不活発会員ですが、フレッドが16歳のとき、次のように言いました。「フレッド、君はこれまでまじめに良い仕事をしてくれたし、その上販売成績も良いので、君をこの新聞の普及促進の副責任者にしたいと思う。君には、ほかの配達の子供たちに購読拡大の方法を教えてもらいたい。夕方の君の配達分が終わってから、2、3時間事務所で働いてほしいんだ。お客さんからの電話を待っている間に、学校の宿題をしてもいいし、すべてが君にとっては良い条件だと思うよ。それでよければ君の給料は今までの3倍にしたいと思うんだが。」

フレッドは喜びました。彼は伝道のために貯金していたのです。十代の少年たちが仕事を見つけるにはなかなか困難なときに、これは実に理想的とも言える仕



フレッドは新聞配達をしながら、伝道のために貯金していました。あるとき、日曜日にも働くように言われたのです。

事でした。

彼は何度も自分自身に言い聞かせました。「主は戒めを守る者を本当に祝福してくださるんだ。」フレッドは常に自分の心を納め、安息日を守り、神権を尊んでいました。

それから1年半後に、主人のジョージは別の話を持ってきました。「フレッド、来週から日曜版の新聞配達を計画しているんだ。君は朝の配達だけでなく、朝8時から午後2時まで事務所にいてもらわなくてはならないんだが、やってくれたら30パーセントの昇給を考えるつもりだ。」

フレッドがあまりうれしそうでないのを見て、主人は言いました。「君はモルモンだから、この話を断わろうと考えているかもしれないが、断われれば平日の配達の仕事も週日の仕事ももうないと思ってほしい。君の仕事を肩代わりするためなら喜んで何でもする子が、ほかにいくらでもいるからね。」

フレッドはその日、家までの帰り道、自転車をこぎながら悲しくてしかたがありませんでした。何度も何度も祈りました。「父なる神様、どうしたらいいでしょうか。私は戒めを守り、正しいことをし

ようとしてきました。自分の一も納めてきました。伝道に出たいと思っていますが、首になるかもしれません。日曜日の仕事を受けるべきでしょうか。」

フレッドは父親に悩みを打ち明けました。父親は賢明にも次のように答えました。「私にはわからないが、教えてくれる人がいるよ。」そこでフレッドは監督と話しましたが、監督が言ったことは、父親の言葉と大して変わりませんでした。フレッドは2日間悩み、そして祈りました。日曜日にその仕事をしたあとで、午後遅く、ほかのワード部の聖餐会に出席することもできるのです。

次の日、返事を求めてきた店の主人に、フレッドはこう答えました。「ぼくは今の仕事も毎日の配達も好きですが、日曜日には働けません。それは正しいことではありません。」

主人のジョージは怒って言いました。「お前は首だ。土曜日に最後の給料を取りに来い。お前は本当に恩知らずなやつだ。」

それからの数日間、主人はフレッドと口をききませんでした。でも、自分の決定が正しかったかどうかを考えたときに、フレッドの胸にはいつも同じ答えが返っ

てくるのでした。「日曜日に働かなければならない人もいられるかもしれない。でも、君にはその必要はないし、そうすべきではない」と。

フレッドが最後の給料を受け取りに行ったときに、店の主人は彼を招き入れるようにしてこう言いました。「フレッド、どうか許してくれ。君の信条に反することを要求すべきではなかった。ほかの教会に行っている子が、日曜日に働いてもいいと言うんだ。君は今までどおり働いてもらいたいのだが。」感謝の気持ちでいっぱいになってフレッドは答えました。「はい、喜んで。」

主人は付け加えて言いました。「日曜日の分として考えていた30パーセントは、今月から上乘せしてあげよう。」

その日の午後、仕事を終えて家に向かうフレッドの心には、何と大きな喜びが広がっていたことでしょう。「主の戒めは確かに守る価値がある」と彼は自分自身に言い聞かせました。もちろん、たとえ給料の増額がなかったにしても、それは価値あることです。

それから1年後、伝道に出るフレッドのための送別の聖餐会が開かれました。そこには新聞店の主人ジョージの姿も見られ、フレッドの喜びは一層大きなものとなりました。そして今から数カ月前に、26年間も教会に不活発であったジョージが、今やワード部の忠実な大祭司グループリーダーとして働いていると知り、フレッドは感激で胸がいっぱいになりました。

仕事を見つげたり、伝道や結婚、そして職業を決めることは確かに容易なことではありません。しかし、心から主に頼り、その戒めを守るならば、主は、「何事も結局は好都合となる」(教義と聖約：24)ように道を備えられるのです。今信じている原則を妥協して曲げることをないようにしましょう。常に主に信頼しようではありませんか。

困難な状態の中でも信仰を持続けなさい

最後にもうひとりの若者(名前をジョンとしましょう)の例について話したいと思います。ジョンは遠い国での伝道中に重い病気にかかりました。消化器系に重大な疾患が発見されたため、伝道部長は彼を家に帰すことを考えていました。

そんなある日、外を歩いていたときに足が急に痛くなり、予定していた家庭集會に同僚と共に行くことができなくなりました。

医師は湿潤な気候が原因の関節炎であると診断を下し、彼に対し2、3日歩かないように指示しました。

ジョンはそれに従い、神権の祝福も受けましたが、状態は変わりませんでした。ジョンはそのとき監督長老でした。彼の担当地区であった都市では長い間バプテスマがありませんでしたが、やっとできるようになり始めたときでした。彼は自分の地区にやっと成功の兆しが見えてきた矢先に、こうして病気で貴重な時間を浪費している自分を主がなぜ黙って見ておられるのか理解できませんでした。

1週間、2週間、3週間、そして1カ月が経過しても症状は良くなりませんでした。そのため彼はもっと良い医療設備を持つ病院のある都市に送られました。レントゲン検査の結果、一度折れた骨が、正しく元に戻らないままそれぞれ勝手に成長を続けていたのです。医師は特別な電気治療をして骨の矯正を試みましたが、うまくいきませんでした。ジョンは落胆しました。消化器系の病気に加えて、足の問題も出てきたのです。再び彼を家に帰すことが検討されました。

それから3カ月後のある朝、起きてみると足に痛みが全然ありません。彼は恐る恐る歩いてみました。それから足を踏みつけてみました。同僚と1キロも走りました。まったく痛みません。完全に治ったのです。彼は大喜びで、すぐさま自分の担当の伝道地区に戻りました。

それから2週間ほどして、ジョンは家から手紙を受け取りました。「愛する息子へ」で始まるその手紙には、病気のことを家族に知らせてこなかったことを非難する文が続いていました。家族は彼の友達の宣教師の手紙によって、病気について知ったのでした。大きな愛を込めて、文面は次のようにつづられていました。「私たちは家族であなたのために断食と定期的な祈りを始めました。また神殿の祈りのリストの中にもあなたの名前を入れました。それが役に立つことを祈っています。」

彼は涙ながらに手紙を読み、日記を調べてみました。彼の足が治りベッドから出た日は、家族が遠く離れた息子のため

に祈り、信仰を実践し、手紙を書いた日とまったと同じ日であることがわかったのです。

遠く1万1,000キロも離れ、どうしてもそのようなことが起こり得たのでしょうか。だれもわからないと思います。しかし、信仰には力があるという現実を、だれも否定することはできないのです。どんなに困難な状態にあろうとも、主に信頼しましょう。忍耐の限度を超えるような逆境にあっても、主に信頼し続けましょう。

人生は苦闘の場です。しかし、主の約束は確かです。あなた方若人は、多くの問題や選択に直面しています。でも、主により頼めばすべてを解決することができます。

まさに主は答えです。主はあなたの可能性を広げ、あなたが何者であり、何をすべきかを教えてくれるのです。

最後に皆さんが主に近くあって、主に信頼する助けとなることを提案したいと思います。

1. 一日中、絶えず啓示を求めて神に祈りましょう。(IIニーファイ9：52参照)

2. たとえ数分間であっても毎日聖典を読みましょう。私たちは聖典を通して、この世の中で進むべき方向と、来るべき世のことについて知ることができます。

3. あなたの生活の中で、みたまにかかわることを優先順位の第一として、信仰を持ち続けましょう。そうすればほかのことはすべて添えて与えられます。

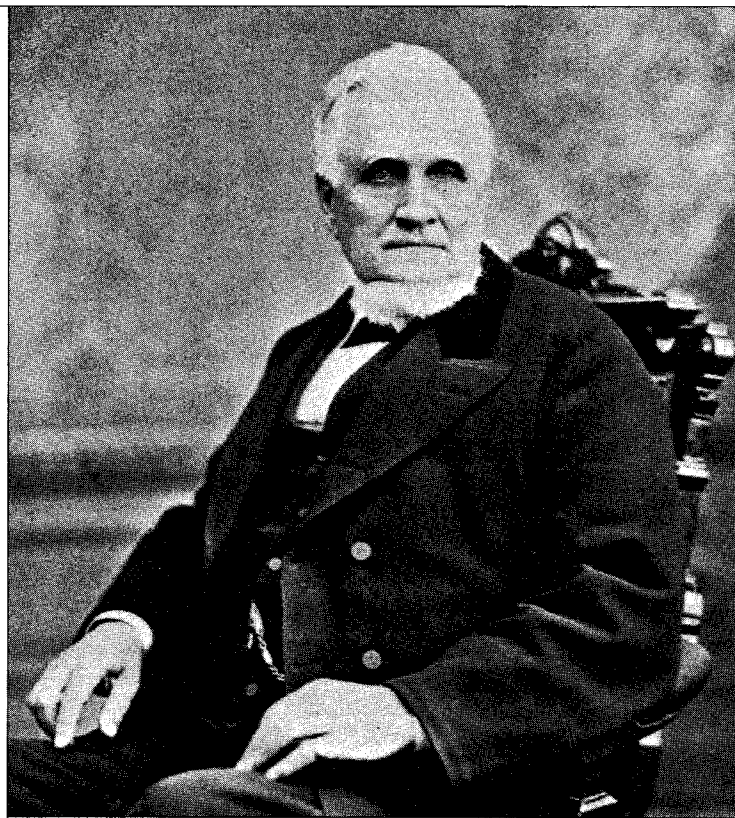
4. 自分自身の意志ではなく、神のみこころを求めましょう。謙遜になって、必要ならば悔い改め、自分の生活を変えることです。

5. 人々を愛し、人々に仕えましょう。主の羊の群れを養いましょう。

6. 戒めを厳密に守りましょう。

主は常に戒めを守る人を祝福されます。「世の人々が神の命令を守るならば、神はまことにこれを養いこれを強くし、また人に命じたもうたことをなし遂げることができる方法を与えたもう。」(Iニーファイ17：3)

私は次のことを心から証いたします。神は皆さんが戒めを守るならば、皆さんを養い強め、この地上での神聖な使命を成し遂げる方法を与えてくださいます。人生の中で大切なこの時期に、主の祝福があつて、正しい決定ができるように祈っています。



予言者は語る 啓示:ジョン・テイラー

私は、人は神と交流できる状態になればならないこと、すなわち神より啓示を受ける必要があることを確信しています。人がもし、聖きみたまの靈感を受けられる状態になれば、神に関する知識は一切得ることができません。

いかに博学であろうと、いかに広範囲な旅の経験があろうと問題ではありません。どの大学に行っていようと、いかに豊かな見識を持っていようと、いかなる考えの持ち主であろうと問題ではないのです。ただ言えることは、神のみたまによらなければ理解できないことがあるということです。それはすなわち、啓示が必要であるということです。しかもそれは、昔与えられた啓示ではなく、現世では生活のあらゆる面で導きを与え、来世では永遠の生命へと導く、今日直接与えられる啓示です。

クリスチャンと公言する人々を含め、多くの人々はこの現代に啓示が与えられるという考えを冷笑するかもしれません。しかし、神と交流のない真の宗教などあ

るでしょうか。あるとすれば、それは、人間として考えられるこのうえない矛盾した考えとしか言いようがありません。懐疑論者や不信仰な人々が驚くほど激増している今日、現在も啓示が与えられるという原則を大多数の人が否定したとしても不思議はありません。またそれほどまでに多くの人々が宗教を軽べつし、宗教は知識のある者が傾注する価値などないものだとみなしているとしても、私は不思議には思いません。なぜなら、啓示のない宗教は偽物であり、こっけいでさえあるからです。

もし、自分の信じる宗教が、神のもとへ自分を導き、心と神をひとつにさせ、不死不滅と永遠の生命の原則を明らかにしてくれるものでなければ、私はそれらとかかわりを持ちたくありません。

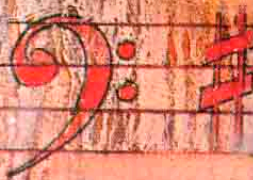
現在も啓示が受けられるという原則は、まさに私たちの信仰の基です。しかし、一般のクリスチャンはそれを拒み、聖書だけで十分であると言っているのです。私も若い頃、聖書を熱心に読み、研究し

ました。聖書は確かに学ぶ価値のある、栄光あるすばらしい書物です。私は今日の若者たちに、また私と同じ年配の方々に、聖書を学ぶよう心から勧めたいと思います。イエスは、「聖書を調べるように」と言われ、こう言われました。「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ5:39)

しかし私は、現在ある聖典だけでなく、神がご自分の民を導くために、これまで与えてくださった啓示、現在与えてくださっている啓示、そしてこれから与えてくださるであろう啓示も探求していきたいと思います。私は啓示を与えてくださる方を心から敬い、これらの原則を広め、知らしめるために主が信頼する器として使われる人々を、心から尊敬したいと思います。私は、それらの聖きみ言葉に含まれている原則によって治められることを心から願ってやみません。(「説教集」より、16:373-76、1876年2月1日)



mp





私たち末日聖徒はどのような人々であるべきか

アジア地域会長会第一副会長
ヤコブ・ティヤガー

カリフォルニアの人々が末日聖徒イエス・キリスト教会についてどう思うかと尋ねられたとき、ある人はこのように答えました。「歌ったり、踊ったり、握手をしたりする人々の教会です。」
なかなか興味深い観察と言えますね。確かに私たちは歌うことが好きです。カリフォルニアの教会の青年たちは、一般公開のダンスショーなどの催し物を定期的に開いていますし、教会員は教会でありさつするとき何度も握手をすることで有名です。けれども、もちろんそれは外見的なことです。では、このように自問してみましょう。私たち末日聖徒は一体どのような人々であるべきでしょうか。いくつかの点を取りあげて、皆さんと一緒に考えてみましょう。

1. 恐れず主に仕える人々。私たちは信仰のある人にも、ない人にも模範を示さなければなりません。主と主に従う者と、悪魔とそれに従う者との間で繰り広げられた天上の戦いで、天の3分の1の軍勢がサタンに従って追放されたことは、皆さんよくご存じのことです。天で始まったその戦いはまだ続いています。ただ戦場が変わっただけで、善悪の戦いは今日もお実在しています。私たちは主を代表する者として、恐れずに(勇敢に)主に仕えなければなりません。サタンは従う者と共にバビロンにいます。私たちは主の教会を組織し、サタンに従う者は、大いなる憎むべき教会、すなわち悪魔の王国を築いています。この戦いに勝利を収めるためには、恐れず主に仕えなければなりません。

2. 神の王国を求める人々。もし今私たちが神の王国を選ばなければ、何を選んだとしても最後には大した問題ではありません。教義と聖約第20章37節には、聖徒が神の王国に入る資格が書かれています。バプテスマを受けて王国に入った

後もこれらの資格は依然として有効であり、さらに向上させなければなりません。

3. 聖典を読む人々。私たちは主の言葉を知り、主のみこころを知ingことを求めています。(教義と聖約1:37-38参照)

4. 忍耐強い人々。教会員は意に反した状況に対して、また同胞や家族、神権指導者に対して忍耐強くなければなりません。また教会に反対する人々に対しても忍耐強くなければなりません。なぜなら、今日の敵は明日の友となるかもしれないからです。(教義と聖約67:13参照)

5. 日々心から救い主に従う霊的な人々。私たちはこの世の人々に対してもまたお互いの間でも、キリストの弟子であることを証明しなければなりません。そのためにいつも主と主の儀式と主の預言者をよりどころとして、主に頼り、神の権能と力と導きを仰いでいます。(Iニファイ14:14参照—最後の神権時代における教会についてのニファイの示現)

6. 神殿推薦状を持っているふさわしい人々。私たちは赦しの奇跡を得るために、絶えず悔い改めて人を赦す態度を身につけなければなりません。(教義と聖約58:42-43参照) 王国の指導者の役割は、羊を養い、無知な者を教え、悩む者を励まし、群れを導くことです。「あそこへ行きなさい」と言うのではなく、救い主ご自身が言われたように、「私について来なさい」と言うことです。

7. 日々の生活の中で次のような価値を受け入れ、実践し、従う人々。

その1 信仰：私たちは次のことを心から信じてこう言うことができるでしょうか。「私は神の子であり、神は私を愛しておられます。そして私の救い主であり贖い主であるイエス・キリストによる永遠の救いの計画を信じています。」(イテル12:4参照)

その2 私たちがこの世に来た神聖な目

的：私たちは「聖徒たちを全き者とするために」伸ばす必要のある才能や性格、特質を神から受けていることを一点の疑いもなく確信しているでしょうか。(教義と聖約82:18参照)

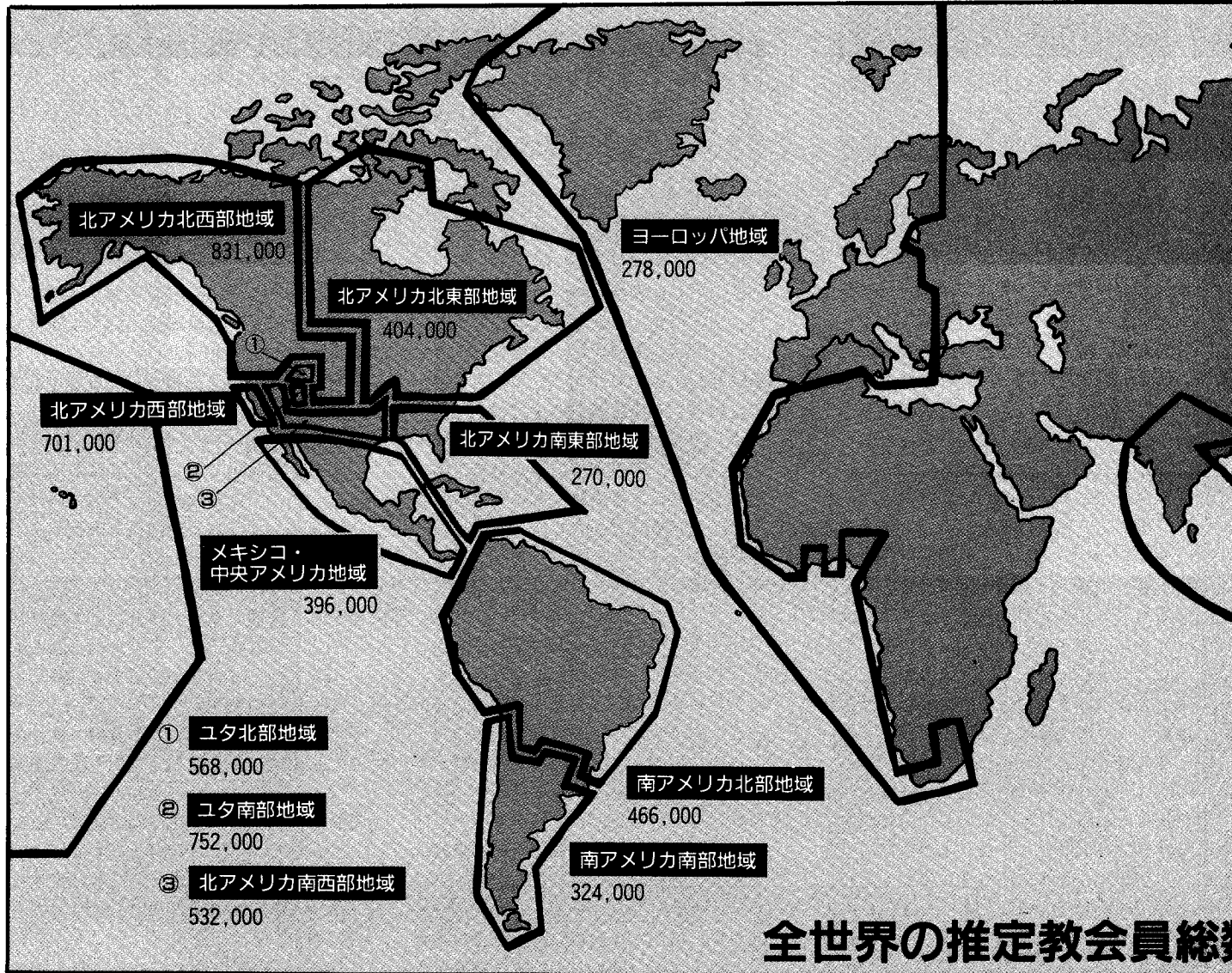
その3 知識：神の栄光は英知、すなわち光明と真理であることを私たちは確信しているでしょうか。そしていつも学び成長するための機会を求めているでしょうか。(教義と聖約130:18-19参照)

その4 責任：私たちは皆、それぞれの行ない、言葉、そして考えることさえも主に対して責任があります。(教義と聖約98:11参照)

その5 善い行ない：主の誓約の民は正しい奉仕の業を通して主の王国を築きます。(IIIニファイ12:16参照)

その6 誠実さ：私たちは正直で、正しく誠実な「心」を持った人々でしょうか。また実直な心のゆえに主に愛される人々でしょうか。(教義と聖約124:15参照)

「私たち末日聖徒はどのような人々であるべきでしょうか」という先の質問に対して、皆さんがよく考えてくださいますよう心から望み、祈っています。これは教会全体のイメージにかかわるだけでなく、物心両面における私たちの幸福、さらには救いと昇栄にかかわる事柄なのです。私たちが主から祝福を得て、主の目から見て自分がどのような人物であるべきかをはっきりと理解できますように。私は謹んで証いたします。教会とその教えが私たちに与えられているのは、あらゆる方法で聖徒たちを全き者にするためであり、その結果謙遜で悔いる精神を持つ人々がその目標を達成することができるのです。聖なるイエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。



教会員総数 600万人に達する

教 会統計専門家は去る4月30日に教会員総数が600万人に達したと発表した。

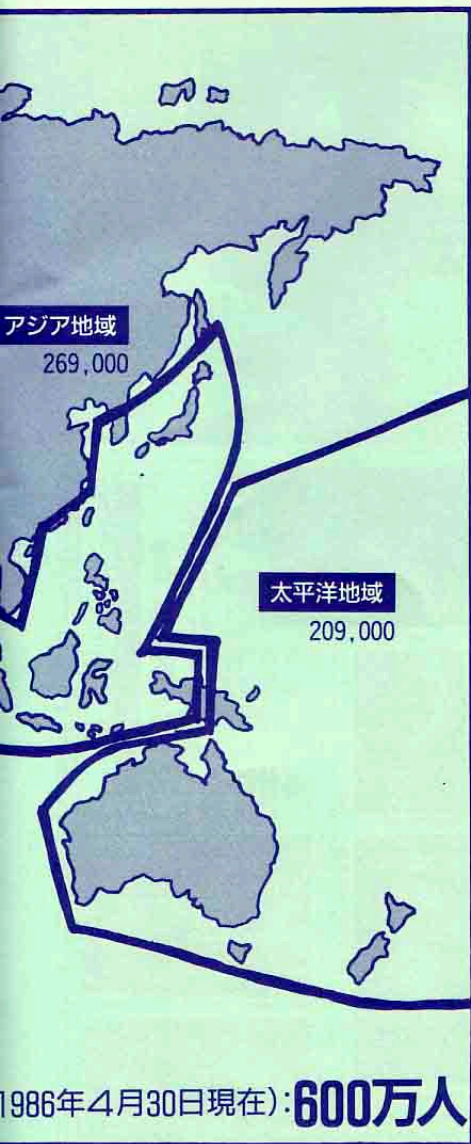
6人の教会員によって集會がもたれるようになった1830年当時と比べると、実に100万倍の発展である。

教会員総数が100万人に達したのは1947年であり、その後1963年、1971年、1978年、1982年、1986年と100万人単位の

増加を示している。このことからわかるように徐々にその間隔が縮まっている。教会が設立されてから会員数が100万人に達するまでに117年かかっていることを考えると、近年の目覚ましい増加には目を見張るものがある。

また発表によると、教会員の66パーセントがアメリカ合衆国内に住んでおり、残りの34パーセントが合衆国以外の国々

に住んでいるが、特に著しい増加を見ているのはアジア地域である。その増加率は年間12パーセントである。またそのほかの地域では南アメリカ地域が7.5パーセント、メキシコ・中央アメリカ地域が6パーセントとなっている。またヨーロッパ地域では2パーセント、太平洋地域では2.5パーセントで、合衆国及びカナダの地域ではわずか1.2パーセントの率



5月に 召された JMTC 第84期生 25名の名簿

S: スターキ部, D: 地方部
W: ワード部, B: 支部

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 川辺 洋一	東京北S/浦和W	福岡伝道部
2. 松浦 宏昭	横浜S/横浜中央W	神戸伝道部
3. 羽田野 唱二	鹿児島D/宮崎B	神戸伝道部
4. 佐藤 郁	横浜S/川崎W	台湾台中伝道部
5. 工藤 正敬	横浜S/小杉B	仙台伝道部
6. 神田 央	東京西S/富士吉田B	神戸伝道部
7. 溝口 洋市	東京北S/越谷W	名古屋伝道部
8. 鈴木 秀明	横浜S/上大岡W	名古屋伝道部
9. 大村 健治	福岡S/久留米B	仙台伝道部
10. 福原 靖子	東京S/三鷹W	仙台伝道部
11. 阿部 文子	熊本D/大分B	大阪伝道部
12. 伊良波 美佐江	沖縄那覇S/那覇W	札幌伝道部
13. 南雲 恵子	町田S/厚木B	大阪伝道部
14. 松田 やえ子	仙台S/山形W	福岡伝道部
15. 荒木 菊江	名古屋西S/福徳W	岡山伝道部
16. 横山 祐子	横浜S/小杉B	名古屋伝道部
17. 中島 啓子	熊本D/熊本B	札幌伝道部
18. 眞田 康子	札幌西S/小樽W	仙台伝道部
19. 中城 千景	札幌西S/苫小牧B	神戸伝道部
20. 千菴 一富	神戸S/西宮W	東京北伝道部
21. 佐久田 眞子	沖縄那覇S/沖縄B	仙台伝道部
22. 岡田 信江	高崎S/高崎W	名古屋伝道部
23. 一宮 梨賀	山口D/宇部B	福岡伝道部
24. 荒井 文子	札幌S/旭川W	神戸伝道部
25. 関本 直子	名古屋西S/福徳W	東京北伝道部

を示しているに過ぎない。

また新会員の比率は、改宗者が68パーセント、新生児が32パーセントである。(新生児は命名、祝福と同時に会員に数えられるが、9歳に達した時点でバプテスマを受けていない場合は会員記録から除外される)

すべての会員の会員記録は保管され、アメリカ合衆国やカナダでは、教会本部にある情報管理センターの指示の下に、大型コンピューターを使って記録されている。しかしそれ以外の国ではすべて手作業で行なっており、今後の課題となっている。

戦没者の遺品が 40年振りに遺族に —米国の末日聖徒が保管—

第二次大戦中、米国のふたりの末日聖徒の軍人が沖縄とフィリピンの地で戦死した日本軍人の写真や位牌、日記が記されていた手帳を保管、それらの遺品が40年振りにそれぞれの遺族に返された。

ひとり、テキサス州に住むロバート・L・ヒル兄弟。「沖縄戦に参加した父が入手したものです。去年この記録の存在を祖母から知らされて以来、ずっと心にかかっています。40年たった今、家族がこれを手にしたら、どんなに感慨深いことでしょう。」ヒル兄弟は、沖縄地区を担当している地区代表の井上龍一長老に手紙を書き送り、7つの位牌と8枚の写真の写しを同封した。これらは攻撃を受けて逃げ込んだ洞窟の中にあつたもので、「糸図にかかわる記録に違いない」と大切に保管していたという。それらの写しは「琉球新報」に勤める沖縄那覇ステーキ部の金城寛兄弟に送られて記事になり、遺族が見つかって無事に手渡された。

フィリピン戦に臨んだリード・C・バロック兄弟は、米軍人としてルソン島陥落後残留品捜索中に小さな洞窟で日本軍

人の手帳を拾った。それには、昭和20年1月元旦から戦死する前日（2月20日）までの日記が記されていた。

1984年10月に、バロック兄弟はフィリピンパリテ峠で墓参中に、やはり墓参していた日本人逢沢英雄氏（元衆議院議員、岡山市戦没者遺族会会長）と知り合い、40年前に拾った手帳のことを告げ、その写しとともに遺族の調査をお願いした。その後、逢沢氏の調査結果を元に、手帳は、縁がありフィリピンの神殿宣教師となったバロック兄弟から、アジア地域会長のウィリアム・R・ブラッドフォード長老の手を経て、遺族の住む岡山地区を担当する地区代表の井上長老に託されることとなった。そして今年の6月10日、岡山ステーキ部倉敷ワード部の中野哲理兄弟姉妹から同じ笠岡市に住む遺族に手渡された。

手帳には、異国の地にあつて遠く離れて住む家族への思いや、戦況が不利になってくる中にあつて、神様への守護を祈り求める切々たる思いが記されている。絶筆となった昭和20年2月20日の3日前の日記から一部を抜粋し、故人の冥福を祈るとともに、今日の平和な日本に生活できることを感謝し、福音によってもたらされる真の平和が早く確立されるように祈り求めたい。

「2月17日

比島（フィリピン）の日は暮れて、また寂しい夜が訪れてまいりました。敵は相変わらず弾丸を射ちまくっています。どうして友軍の飛行機は来ないのですか。天照大御神様、身をよく守ってくださいるようにお願いします。

2月18日 不明

2月19日

きょうも寂しく日は暮れようとしています。一日中敵の砲弾の音ばかり聞いているのもいやになりました。また、朝は敵の飛行機が来て、機銃掃射をしたり、



●遺品（手帳）は故鈴木恒典陸軍兵長夫人の静子さん（現在再婚されて田中姓となっている）に無事届けられた



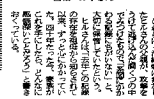
宮岡が宮岡龍樹さん



佐藤健立興学校長



高橋ハル子さん



戦場で胸帯を挿入、記念撮影したとみられる藤原盛太郎



1944年、天山山脈にて

写真位牌は、返した、

新報社に届ける

- (上)岡山伝道本部で逢沢英雄氏と会い、これまでの経過を説明する井上龍一長老
- (下)「琉球新報」(昭和60年5月3日付)で報じられた遺品の数々

爆弾を落としたりして帰りました。小生は我が妻の写真の壕の中でながめていました。

天照大御神様、小生の身を守ってくださいるようにお願いいたします。怖がらなくてもすむように、私を元気づけてくださるように……。どうしても怖くてなりませんから度胸をつけてくださるようお願いいたします。これからは毎日手を合わせて大御神様をお願いいたします。

2月20日

……どうぞ大御神様一日中無事に済みますようお願いいたします。小生の身をよく守ってくださるようお願いいたします。どうぞ一日……。」

遺族へ遺品の返還の橋渡しをされた井上地区代表の話：

「この度、ヒル兄弟、そしてバロック兄弟のご好意により、それぞれの遺族に大切な遺品をお返しすることができました。沖縄那覇ステーク部の金城寛兄弟、そして岡山ステーク部の中野哲理兄弟姉妹、また岡山市遺族会会長の逢沢英雄氏のご協力に感謝しております。

沖縄とフィリピンと場所こそ違いますが、ヒル兄弟も彼の父君も、またバロック兄弟もまさしく真の末日聖徒だと言えます。もう40年も前になりますが、戦場において、それも敵国の人々の物であり、彼らにとってはたいして価値もない品物を拾い集め、それだけでなく、その品物を長い間大切に保管して、何とかしてこれらの品々を持ち主に返そうと最善の努力を払われたのです。時間もかかり、費用もかかることでしたが、その努力をされ、日本人に真の愛を示してくださいました。

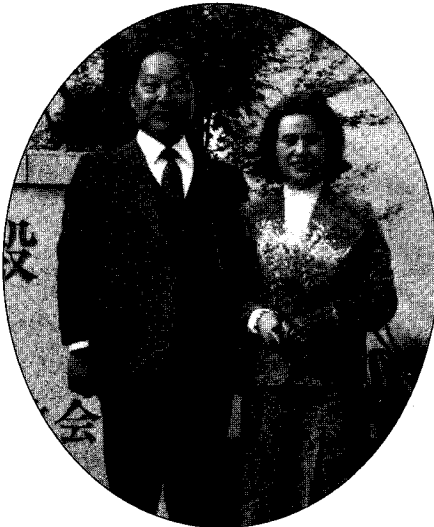
中野兄弟姉妹が遺品を持ち主の奥様（再婚されて田中姓を名乗っておられる）にお返しに上がると、田中さんは涙を流されて、おふたり、およびバロック兄弟のご好意に感謝しておられ、また懐かしい思い出を話してくださいましたとのことです。

モロナイの言葉が私の耳にひびいてきます。『それであるから私の愛する兄弟らよ。愛はいつまでも消え失せることがないから、あなたたちにもしも愛がないならあなたたちは空しい者である。ほかのものはみな消えてなくなるものであるから、すべてにまさる愛を固く守れ。

この愛はキリストの純粋な愛であって永遠につづくものである。従って終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。』（モロナイ7：46-47）

こうして41回目の終戦記念日を迎えるにあたり、戦争が残っていた癒され得ない傷跡の深さを思い知らされ、改めて平和への思いを強くいたしました。」

定森徹也支部長（49歳）逝く
岡山ステーク部津山支部



「津山支部の定森支部長が危篤状態に陥ったため、家族で祈ってほしい」と監督から電話を受けたのは、5月27日の夜でした。しかし、ステーク部の皆の祈りもむなしく、28日の早朝に49歳の生涯を閉じられたのです。短期間の病気療養のはずが、一転しての悲報で、あたかも、改宗後5年の間にこの世でのすべての業を終えたかのような突然の死でした。

癒しの儀式がなされ、その祝福の言葉に、「あなたはイエス・キリストに抱かれる」とあったように、棺に横たわる定森兄弟の顔は、笑みを浮かべ、今にも眠りから覚めそうな安らかさに満ちていました。

彼は獣医として、県北一帯の酪農家にこれまで長年にわたって親しまれ、愛され、尊敬されてきました。また教会では支部長として精力的に働かれ、特に最近では伝道に力を注ぎ、「聖徒の道」を知人や友人に60冊ほど贈られたことは、会員たちに驚きと深い感銘をもたらしました。

ユーモアに富み、だれに対しても親愛の情を示し、会員たちを我が子のように愛していました。教会が狭いからと、カルチャー・ホールのような意味合いで最近完成した広い離れが彼の葬儀場になると

は、だれが想像することができたでしょう。

天も悲しんでいるかのような雨の中、渡辺ステーク部長管理のもと、約200名もの参列者で家の中も外も埋めつくされました。これまでの彼の働きに感謝するとともに、彼が霊界での働きのため、天に取り上げられたものと確信しています。

（レポーター：ステーク部幹部書記・高田俊久）

夫の死に臨んで

定森 尚子

我が家と教会とのつながりは1975年に始まり、76年3月、まず私がバプテスマを受けました。夫は最初関心がないかのようにでしたが、宣教師や会員の方々からの働きかけがあり、特に1976年の正月に受け取った伊佐長老（現沖縄普天間ワード部監督）の転任先からの年賀状に心を動かされたようで、初めてバプテスマの意志表示をしました。賀状の返事に「辛抱も朝日待つ間ぞ竹の雪」と書き、いつしかバプテスマを受ける決心をしていることを知りました。夫の改宗の時期が早められるよう、また夫にバプテスマを施す宣教師が送られるよう祈り続けました。

牛が大好きで、酪農家を愛し、彼らと親族のように交わり、日夜献身的に診療に打ち込んでいた夫のもとに、1980年12月、アメリカの酪農家出身のミッキー（マイケルソン）長老の訪れがありました。牛好き同士、たちまち父と息子のように仲良くなり、1981年7月1日、ついにバプテスマを受けました。1983年の4月頃よりとても熱心な会員となり、1984年7月にメルケゼデク神権をいただき、同11月、東京神殿でエンダウメントと夫婦の結び固めを受けました。

1985年8月より死に臨むまでの9カ月

ハイテク変身

米国の中西部都市

3

モルモン教の聖都、ユタ州ソルトレークシティがアラブ資本の手で近代的な都市に姿容をよとじている。サウジアラビアの富豪アドナン・カシヨギーの出資による「ライオン・コーポレーション」が市の再開発に乗り出し、現在、ユニオン・ステーションの裏側に超高層ビル三棟を含むオフィスセンターを十年で建設する計画を進めている。総投資額はおよそ一億五千万。市も道路、水道、電気、ガスなどのインフラストラクチャー建設、国際空港の滑走路の増設(三本目を約束して)、カシヨギー・ファミリーのプロジェクトに全面的に協力している。ソルトレークシティは一八三〇年、ブリガム・ヤングが開

高学歴で勤勉な州民

カシヨギー氏は毎年数回、この町へ飛んでくる。同氏の対米戦略の中心となる投資会社「ライオン・アメリカ」の本社がここにある。子会社の「ライオン・コーポ」や「ソルトレーク・インターナショナル」は「一般社員を高く言葉をかける気さくな物。しかし資産数も億単位」といわれる。同氏及び同族がユタ州に蓄財したのはそ

モルモン教の聖都 ソルトレークシティ

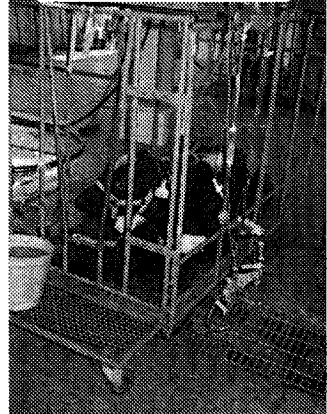
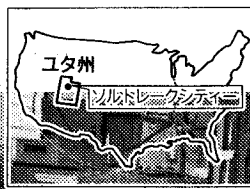
の成長を買ったからではないか、というのが大方の推測だ。ユタ州の人口は約五十万人で、その六割がモルモン教徒。彼らは結婚、家族を重視し、離婚その他のいわゆる家族の崩壊に容れられない。米国でもなごまねな地域といわれる。ユタ州の出生率は三・三多と実に米国平均の三倍。一夫婦平均四・五人の子供をかかえ、教育

アラブ資本の導入で、新しい

アラブ資本が再開発

に熱心だ。「高学歴の全国統一テストではいつもユタ州は上位に入る」といのが、人々の自慢だ。ユタ州にはこれまでに軍を別すれば、産業として、鉱山(ケネコット銅山)は、観光(スキューバ)は、目ぼしいものがなかった。今では七千人を数えた鉱山労働者は、四割が職を求め他州へ出ていく。逆にいえば、高学歴で勤勉

業を特定し、企業誘致活動を展開し始めた。バイオディカル、CAD/CA M(コンピュータ)を使う設計、製造、宇宙・航空機、ロボットの、新エネルギーがそれぞれ、有力な大学が三つもある。八三年には州政府が予算の一部を出資して、ベンチャー・ヒューズを育てるための投資会社、ユタ・イノベーション・アンド・ファイナンス・コーポレーションを設立、ハイテクV



人工心臓実験中の子牛(ソルトレークシティのオールド・セント・マークス・ホスピタルで)

「日経産業新聞」昭和六十一年六月六日付

新聞からの話題

間、津山支部の支部長の任にありました。ユーモアに富んでいて、支部の兄弟姉妹を特に喜ばせたようです。

聖典を熱心に研究し、聖典や教会出版物の抜粋ノートを作ったり、伝道のビジョンを持ち、酪農家、友人、知人などに「聖徒の道」を贈ることに着手し始めたばかりのときでした。今すぐできる伝道、将来の伝道の備えと二段構えで熱心に取り組む、スタートした直後の死であり、これからというときの天の召しでした。

今は墓の向こうで懐かしい先祖の方々にも会い、伝道に精を出していることと思います。私もそのような夫や天父、イエス・キリスト様に、そして多くのすばらしい人々に喜びをもって会えるように、残る地上での生活を送るつもりです。(さだもり・なおこ 1940年生まれ、津山支部扶助協会会長)

新役員の新任命

5月16日から6月15日までに日本東京管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の新任命(敬称略)

- 仙台ステークス部泉ワード部
新監督：山田直樹(前任者：猪股洋文)
●町田ステークス部藤沢ワード部
新監督：柏倉仁(前任者：桜井宗一)
●大阪北ステークス部茨木ワード部
新監督：中嶋清次(前任者：堂ノ本勉)
●大阪北ステークス部高槻ワード部
新監督：佐藤文彦(前任者：柏山歳夫)
●大阪北ステークス部花屋敷ワード部
新監督：三浦寛治(前任者：岩田雅方)



マイスクールの子供たち②

B君とは「一生の付き合いだ」と思ったとおり、一方通行の私の手紙が10通を超えた頃、電話で心を開いてく

れるようになりました。今は共に職業安定所へ通っています。

彼は家出中の母親に対して大変な不信感を持っており、私にはそれをカバーする役目があると思っています。また、彼

の家を見て、末日聖徒イエス・キリスト教会の信条ともなっている「いかなる成功も家庭での失敗を償うことはできない」との言葉は確かに真実であると強く感じます。彼が自分の家庭を整える準備

をしてくれるよう助けたいと思います。

彼の心はとても豊かで、真理への強い探求心があります。また、かつて母親から強いられてセミナーをやめたT君やS君が、今年入った高校の管理体制になじめずに疲れているのを励ましたりする少年です。彼が、祈ることによって真の平安を得、正しく歩めるよう心から願っています。

●NHKの番組で放映され、大きな反響

6月5日、「教育を考える」というNHKの特別番組で、「マイスクール」の様子が10分間にわたって映し出されました。番組の中で登校拒否やいじめ、親の自殺、家庭不和などの悩みを抱える子供たちの様子や、母親へのインタビュー、さらにセミナーで純潔の律法（一般的に言えば性教育）を教えているところなどが取りあげられました。これは3日間の取材を経て、10分間に編集されたものです。

四国4県の放映でしたが各方面から様々な反響がありました。75件の電話を受けましたが、そのほとんどが教育相談で、ある評論家はこれこそ教育の真髄であるとまで言ってくださいました。

「マイスクール」にはその後新たに3人が加わりました。また、恵まれて5、6月に生徒たちの内7人が改宗し、さらにはそのご両親など3人が主のもとに導かれました。感謝に絶えません。(高松ステークス部新居浜支部セミナー教師・藤谷利恵子)

マイスクールの子供たち

<2>

「信頼できやうなやつなんて、だれもおらん」。昨年十月、同級のT君(き)に誘われて顔を見せた時のB君(き)の言葉

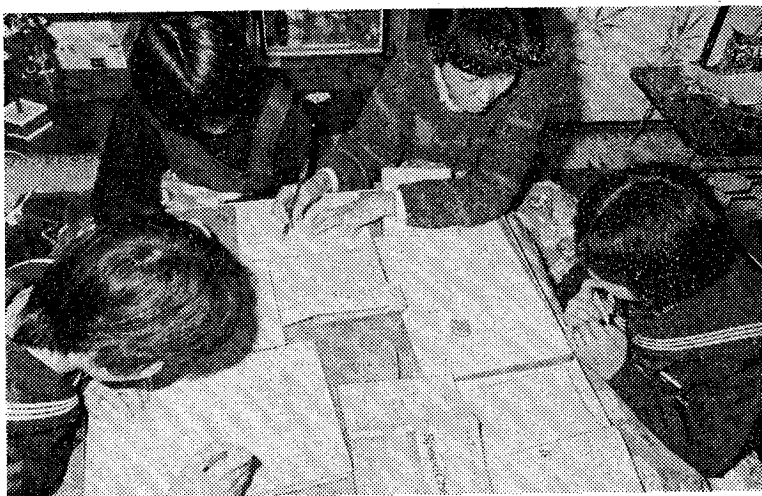
を覚えている。B君は「母やん、あめめ」。母親にしがみついた時、B君は包丁でけがをした。母親はその時から家を出たままだ。

この事件以来、夕食は母やんと兄がつくものようになった。弁当は持っていない。父親は級友にたかっている。父親はB君に屋敷代を渡しているが、B君のこんな学校生活にあまり干渉しない。

夫婦げんか

決めつけるのは... B君は、友人の親からも手

反抗児も心やさしい一面



高校受験を控えた生徒たちは週末、藤谷さん宅でコタツを囲んで特訓。指導する藤谷さんも「難しいねー」と必死だ ー新居浜市菊本町で

家出した母を気遣う

のつけられなワイルと見られていた。しかし、藤谷さんに

は、T君になんか言いつけ、頼った言葉だった。B君の本

からたはこを勧められた。机の上には毎日の空き缶が

電話はうとうとう思われな

いまま、一方通行の手紙だ

「母やん呼び戻す」 いま、B君は就職しようとして決心している。最近、母親が松山で一人で住んでいることがわかったからだ。「母やんは病気がちなや。おれが仕事について呼び戻しに行ったら、また帰ってきやう。将来は、長距離トラックの運転手になるわ」と話している。

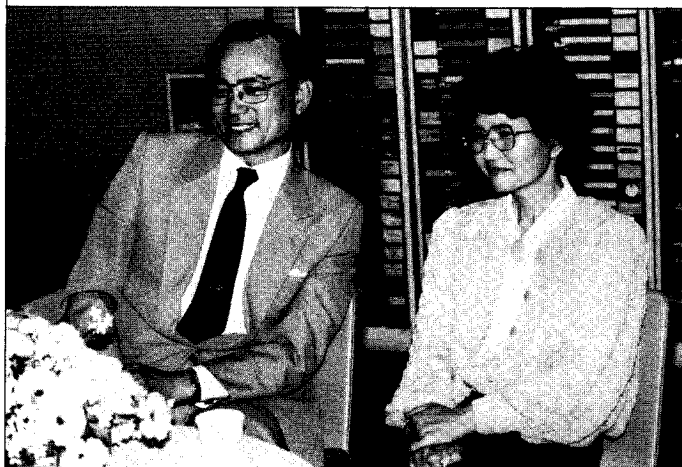
藤谷さんとB君のつながりは、一方通行の手紙だ。一人を信じる強さをもって欲しい」との一心からだ。

「母やん呼び戻す」 いま、B君は就職しようとして決心している。最近、母親が松山で一人で住んでいることがわかったからだ。「母やんは病気がちなや。おれが仕事について呼び戻しに行ったら、また帰ってきやう。将来は、長距離トラックの運転手になるわ」と話している。

浅間玄也地区代表(51歳)に 聞く(前横浜ステーキ部長)

人々に仕えることの意味 —「自分を捨てられたら必ず幸福に」—

●インタビューに応じる浅間長老ご夫妻(渋谷ブックセンターにて)



●「主が召されました」

—これまで7年半務められた横浜ステーキ部長としての任を解かれて、新たに地区代表になられたわけですが、召されたときのお気持ちは……。

「ステーキ部長解任の時が迫ったことは感じていました。アジア地域会長会のウィルコックス長老から面接を受けるまでの何日かは、主が私に期待されたことをやれたのだろうか、人々の僕としてふさわしく働けたのだろうか、と自省していました。地区代表の召しについては、私よりすぐれた人がたくさんおられるので考えもしませんでした。ウィルコックス長老から面接を受けたとき「主が召されました」と言われ、私もそれがよく認識できました。」

—これまで33年間の教会生活の中で数多くの責任を受けられたと思いますが、最も印象に残った責任は何でしたか。

「監督とステーキ部長の責任でした。監督は4年間務めさせていただきましたがその召しの神聖さ、人々に仕えることの意味を教えられました。またステーキ部長として働かせていただいた間に、67人の宣教師となる兄弟姉妹と面接しましたが、そのときの感動は忘れられません。いつも最初に回復された福音への証をお聞きし、次に『この福音が人々に伝えられればこの世が清くなると信じますか』と尋ねました。67人の方々は例外なく目を輝かせて『はい』と答えられました。」

●「宴会には積極的に参加するようにしています」

—浅間長老は日網石油精製株式会社

にお勤めだそうですが、具体的にどういったお仕事をされているのですか。

「石油精製設備の設計、建設、保全などの仕事と防災技術に関する仕事を行ってきました。しかし、現在は短期間の予定で行なう企業の合理化を図るための効率化推進プロジェクトチームのマネージャーとして働いています。」

—会社の上司や同僚、部下の方々は浅間長老がクリスチャンであることに対してどのように感じていらっしゃいますか。

「初心を貫いて徹底してやっているな、と思っているようです。私たち末日聖徒はアルコール類を口にしないわけですが、社内や関連会社、官庁の人たちも、説明するとよく理解してくれました。30年ほどの経験から、私は『正しいことを正しい人々は必ず理解してくれる』と確信しています。もちろん私たちは、アルコールを媒体としなくても楽しく交際し合えるということを知っていますので、私もお酒の出る宴会は歓迎していません。しかし、それらの席には積極的に出席するように務めてきましたし、明るく振る舞うようにしてきました。若いときから教会で訓練を受けてきましたから、最初にみんなの前で話をしたり、歌ったりすることはあまり問題がありませんでした。これは私にとって処世の武器とさえ感じられました。『知恵の言葉』は世の汚れから私たちを守ってくれる戒めでもありますが、一見汚れたように見える宴会も、『知恵の言葉』を説明し、福音を紹介する絶好の機会と思えるときがありますね。」

●十八番は「サンライズ・サンセット」

—5、6年ほど前に会社の創立記念パーティーで、ご家族で歌を歌われたと伺いましたが……。

(浅間姉妹)「(笑)娘から聞いたんですね。」

「ほかにも数家族が出演するからと言うので、みんなで『おじいさんの古時計』を歌いました。私たちにとっては家庭の夕べの発表をしたようなもので、よい思い出になりましたが、結局歌ったのは私たちだけでした。」

—歌はお好きなんですか。

「ええ、まあ。娘の結婚式のときも娘とふたりで『サンライズ・サンセット』を歌いました。教会ではみんな歌いますし、人前で話すことは教会員ならだれでもできることです。それを恐れずに行なうだけのことです。聖典には『恐れるな』とたくさん出てきますよね。(笑)」



〈あさま・げんや〉昭和10年群馬県高崎市生まれ。今年の2月10日、地区代表に召された。担当は東京地区と静岡地区。横浜ステーキ部横浜第2ワード部所属

各地のたより

●「改宗は高校生のとき。将来祈りのある家庭を作ろうと決心しました」

——今までの人生で、大きく影響されたこと、あるいは転換期となったことなどおありですか。

「高校生のときに、両親が宣教師からレッスンを受けたのがきっかけで、私も福音に耳を傾けるようになりました。残念ながら両親は改宗には至りませんでした。私はこの福音が真実であると確信し、バプテスマを受けました。

人間がどう生きるべきかということについてそのときに宣教師や会員から学びました。たとえ自分の両親は福音を受け入れなくても、やはりこの生き方が一番正しいとわかったんですね。その正しい生き方を自分の人生で貫いて、将来祈りのある家庭を作ろうと決心しました。

これまでいろんなことがありました。高度成長の時代、石油会社はどんどん建設が進み、日曜日にも働かなくてはならないような状態になったりして、日曜日に教会に行かないことがしばしばありました。そのようなとき、これではいけない、初心に返らなくてはいけないと思い、再び活発に集えるようになりました。」

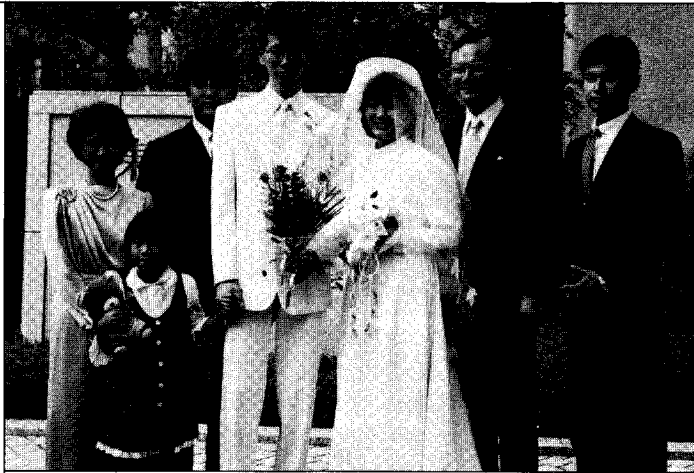
——浅間長老が地区代表に召されたときの記事（5月号「ローカルページ」6頁）の中で、「福音の中で生活することを楽しんできました」とありましたが、信仰生活を楽しむコツや秘訣、ご自分心がけていらっしゃるものがあればお伺いしたいのですが……。

「もし自分が本当に幸せになりたいと思ったら、人から何かをしてもらいたいという気持ちを捨てることだと思ってきました。何かを人にしてあげることが、幸せになれるただひとつの道だと気づきました。自分がそのような気持ちで人に仕えている状態にあるとき、とても楽しかったんですね。ですから、人はそのように自分を捨てられたら必ず幸せになれると私は信じています。」

●自家製のフッキー 200個を差し入れ

——小学校のPTA会長を4年間務めておられると伺っていますが……。

「PTAの責任も人に仕えることですから。世の中がよくなるためには、イエ



●昨年、ご長女の加奈子姉妹(23)が結婚されたときの写真。右側の大介兄弟(20)は現在南米チリのコンセプション伝道部で伝道中。英太兄弟(14)と聡美ちゃん(9)の2男2女

ス・キリストの福音が広められる以外にはないと思っています。そのためには自分の生きざまを人々に見てもらって、私たちの教会を理解してもらえたらと願っています。現に私が教会員であることを先の方や地域の人たちはほとんど知っていますし、教会に対して良い印象を持つようになってきていると思います。」

(浅間姉妹)「先日こんなことがありました。年に一度PTA主催のバザーがあるんですが、そのバザーでお母様方80人ほどが朝早くから一生懸命働いてくださるのを見て、主人が何か感謝の気持ちを表わしたいと言うんです。それでクッキーを作ることになり、夜12時過ぎまでかかって200個ほど作って皆様に召しあがっていただいたんです。その後宣教師がたまたま役員をされていた方の家を訪れたところ、『あのときは非常に感激しました』と言われて、宣教師のレッスンを受け、教会に来てくださるようになったんです。それは私たちにとって、とてもうれしいお話でした。」

「とてもやりがいのある責任ですね。PTAの会長をしていますと、子供たちを前にして話す機会が1年のうち何度かありますが、やはり一番力が入るのは卒業式の日です。過去3回経験しました。自分の心血を注ぎ、^{かいそ}瞑想を重ね、熟慮して話を準備するんです。聖餐会のお話と同じように。(笑)胸が震える経験ですよ。子供たちの心に残るかどうかはわかりませんが、霊的なメッセージを伝えるようにしているんです。とてもよい経験でした。」

(浅間姉妹)「でももっとうれしいこともあるでしょう。大勢の子供たちがその

卒業式が終わったあと、『とってもいいお話を、どうもありがとうございました』と言いにわざわざ主人のところへ来てくれたんです。取り立てて立派な話というのではないのですが、ごくごく身近に感じる話なので、子供たちの心を打つものがあるんですね。」

●日記にB6サイズのカードが活躍

——教会や地域社会などで役員をされていると、人前で話される機会が多くおありかと思いますが、そのために何か特別に工夫しておられますか。

「皆さんもいろいろされていると思いますが、私はB6サイズのカードを使って情報を集積しています。以前はスクラップブックなどを使っていましたが、B6カードはもっと便利だと気がつきました。たとえば『聖霊の賜』ならば『S-9』といった整理番号を付けて『聖徒の道』の切り抜きとかコピーしたものを張り、B6サイズに折りたたんでおきます。これがいろいろな種類で整理されておりますから、『聖霊の賜』であれ、『安息日』であれ、『知恵の言葉』であれ、その項目を引き抜けばいいんですね。それを何枚か見まして、自分の心をウォームアップしたり、話の準備に使ったりします。自分の書いたものや引用、新聞、雑誌の切り抜きなどもありますが、やはり『聖徒の道』からのものが一番多いです。毎日書く日記も同じカードを使っていますが、料理、園芸、旅行などといった項目もあり、箱に入れて整理しています。」

——料理はご自分で作られるんですか。「たまたま時間のできた夕方などに……。気分転換になりますし、元来それ

各地のたより

が好きなようです。もっとも月に一度くらいですが。」

●結婚は7, 8年の文通を経て

—おふたりのなれそめをお聞かせください。幼なじみとか……。

「中学生のときから一緒でした。私は野球の選手でしたから私の名前を皆知っていました。特に女の人は。(笑)」

(浅間姉妹)「ええ、有名でしたね。」

—奥様は浅間長老と同じ頃に改宗されたんですか。

「教会に連れて来たんです。友達でしたから。それで間もなく改宗しました。そのときはふたりとも結婚するとは思っていなかったと思いますが、一番良い友達でした。のちに結婚するのが自然だと思ふようになって一緒になりました。」

(浅間姉妹)「7, 8年文通したかしら?」

「ちょっと離れて住んでいましたので、その間文通しました。結婚は彼女が24歳、私が25歳のときでした。」

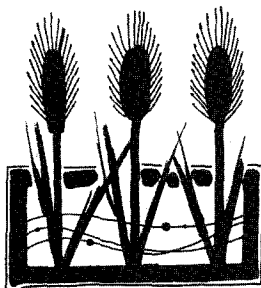
●毎朝、腕立て伏せを60回

—何か健康法で特に留意していらっしゃるのでしょうか。

「朝起きると、お祈りのあとに腕立て伏せを60回して、竹を踏みます。そして朝食後にスーツを着てバス停までのジョギング5分。(笑)バスの中では腕と手の指圧を15分。それに、1日2キロ以上足速で歩くようにしています。」

●「霊性は、心が熱く震えるような経験を通して得られます」

—最後になりましたが、これからの教会の将来を担う若人に一言メッセージをお願いします。



「私は今までにたくさんの若人と触れ合う機会がありましたが、その信仰のあり方にいつも感動させられました。ワード部や支部の霊性が若い人々の信仰によって高められるのを見てきました。そのような霊性は、教会の教育プログラムや定例集会のレッスンでイエス・キリスト

の教えを学び、祈りによって天父に語りかけ、みたまによって告げられる、心が熱く震えるような経験を通して得られるのだと思います。戒めを守ることによって心が澄んでくれば、主がみたまによって語られる静かな細い声を聞き逃すことはないと思います。」

6月に3年の任期を終えて帰国された大阪伝道部のメリル・L・ブロック伝道部長と、神戸伝道部のパーロウ・L・パッカー伝道部長の足跡を振り返って、伝道部長補佐として活躍されたふたりの元宣教師たちにレポートしていただきました。



ブロック伝道部長に学ぶ

元大阪伝道部宣教師
伝道部長補佐 増田 和之

●メリル・L・ブロック伝道部長ご家族と本部スタッフ。左端が増田和之長老

「よい指導をしている長老、特に宣教と教とのために労している長老は、二倍の尊敬を受けるにふさわしい者である。」(Iテモテ5:17) メリル・L・ブロック伝道部長ご家族の3年間にわたる無私の奉仕は、この聖句に値するものです。

ブロック伝道部長が、一貫して強調されてきたのは、宣教師一人一人が聖くなることによって霊性を高め、みたまの力で伝道するということです。戒めを忠実に守ることや伝道部の基本的な規則に従うことはもちろんのこと、熱心に働くことによって聖められることを、常にそのすばらしい模範によって教えていただきました。「神様の助けを得て伝道したい

と思うなら、まずあなたが100パーセント全力で働かなければなりません」という力強い言葉と模範に、何人の宣教師が悔い改め、励まされたことでしょう。

聖めによる霊性に次いで強調されてきたのは、すべての伝道方法に精通することです。このため宣教師の教える準備として、会員の家族を訪問し、レッスンを伝えるというレッスンプラン・パスオフ・プログラムが積極的に進められました。このプログラムを通じて宣教師たちの教える技術が向上しただけでなく、訪問先の会員と良い関係を築くことができました。またある宣教師は家族の中でひとりだけ会員である所を特に訪問し、まだ会員でない家族の方々と親しくなって、

各地のたより

新たな求道者を得ました。

音楽の才能のある宣教師たちが集まって行なった「愛の絆コンサートツアー」はとても効果的な伝道方法となりました。これは会員と共に働くひとつの機会として、音楽の才能のある宣教師たちが集まって企画したものでした。各地で会員やお友達、家族の方々が教会に来てくださいました。善と悪がだんだん見分けにくくなり、多くの世の教えや悪の力が氾濫する大都会の中で、家族の愛や助け合う友のすばらしさを歌ったこのコンサートは、入場者の皆さんに温かい感動を与えました。

プレロック伝道部長は、宣教師を霊的に鼓舞し、効果的な伝道方法を推し進めてくださっただけでなく、もっと大切なことも私たちに残してくださいました。それは家族を大切にするという愛の模範です。プレロック夫妻の仲の良さはだれもが認めるところです。いつもふたりで聖典を読み、讃美歌を歌う姿を見て、宣教師たちは家庭がどうあるべきかの模範を目のあたりに学びました。また毎週開かれるプレロック家族の家庭の夕べにはたびたび多くの家族、特に求道者の家族が招待されました。

後にバプテスマを受けたある家族は、プレロック家族と共に過ごした夕べのことを次のように語っています。「とても楽しいひとときでした。伝道部長のご家族は私たちのためにミニコンサートを開いてくれたんです。娘さんのコーラスは本当にすばらしいものでした。また伝道部長さんの家族への愛がひしひしと伝わってきました。「今までプレロック姉妹とけんかをしたことはないし、子供たちを怒ったことはありませんね」という彼の言葉にも驚きました。自分の家族もこうなりたいのだと思います。よい模範です。」

プレロック家族について語るとき、プレロック姉妹の霊性と音楽の才能について触れない訳にはいきません。プレロック姉妹は折にふれて霊的な証を伝えてくださり、よい歌を力強く歌ってくださいました。彼女がゾーン大会で一人一人に語りかけるように歌ってくださったとき、その温かい愛を感じなかった宣教師がいるのでしょうか。皆、心に強く愛を感じ、

自分の聖なる召しの大切さを理解する機会となりました。

家族を大切にすプレロック伝道部長夫妻はまたすべての宣教師を本当の子供たちと同様に愛してくださいました。「伝道部長は私にとって特別な人です。天のお父様と同じような愛で私を愛してくれます。私がかつてちょっと失敗して多くの人に責められ、本当につらく苦しいとき、伝道部長だけは私を全面的に信頼してくれました。いつも絶えず励ましてくれました」とある姉妹宣教師は語っています。

プレロック伝道部長の指導によって少しずつ成長してきた日本大阪伝道部は、今年に入ってひとつの結実期を迎えたようです。1月と2月に行なわれたモルモン経月間では、宣教師と会員がガッチリと手を組んで3,000冊に及ぶモルモン経を証と祈りを込めてお友達や求道者の方へ贈りました。これを契機に各ワード部では伝道意識が高まり、会員伝道とい

うことがもっと身近に感じられるようになりました。実際、求道者の数も増えています。

大阪ステーク部の浜田ステーク部長はこのように言っておられます。「プレロック伝道部長とはこの3年間、多くの仕事を共にやってきた訳ですが、私の知っている限りでは一番日本や日本人を理解している伝道部長だと思います。いつも日本語を学び、日本というものを理解するように努めておられました。また日本人にとって一番効果的な伝道方法をいつも考えておられると感じました。本当にすばらしい伝道部長だと思います。」

実際、プレロック伝道部長の日本語の正確さと語彙の豊富さにはだれもが驚くところです。プレロック伝道部長ご家族の3年間にわたる働きを決して一言で表わすことはできませんが、その愛、模範、霊性、強い信仰を私たちは一生忘れないことでしよう。(ますだ・かずゆき 1958年生まれ、熊本地方部熊本支部)

パッカー伝道部長の模範

元神戸伝道部専任宣教師
伝道部長補佐
萬谷 仁

●パーロウ・L・パッカー伝道部長と共に



「2年間の伝道で、学ぶことのできた最大のものは何ですか」と聞かれたら、私は人を救いへと導く神様の愛と答えるでしょう。神様はその愛を、指導者を通して与えられます。

私は神戸伝道部で専任宣教師として働く機会があり、伝道部長であるパーロウ・L・パッカー長老の偉大な愛と模範を見ることができました。

伝道部長は、私たちが伝道期間だけでなく生涯にわたって、救いの道を歩めるように助け、導いてくださいました。その愛は、神戸伝道部で築かれた次の3つ

のよき伝統の中に生きています。

1. 10の贈り物

伝道部長は、私たちが解任されたときに持ち帰るべき10の贈り物を示してくださいました。この贈り物は、伝道中であっても、伝道後であっても、すべての教員が努力を払うに値する目標です。

- ①永遠の父なる神に対する知識と愛
- ②聖典に対する知識と愛
- ③両親に対する愛
- ④一緒に働く人々への愛
- ⑤勤勉と仕事を楽しむこと

各地のたより

- ⑥必要なときに靈感を与えられる能力、また神について心に深く考え、そして祈ることのできる能力
- ⑦共同作業の大切さを理解すること
- ⑧個人の徳の価値を理解すること
- ⑨行動に移す信仰
- ⑩知識やすべての良いことを渴望すること

2. ベーシック10

これは、宣教師が暗記を目標とする基本的な聖句のリストです。伝道部長は、この聖句のリストを伝道中だけではなく、生涯にわたって役に立つものとして選ばれました。永遠の生命なる神のみ言葉を「味わう」ことのひとつのステップとなるものです。

- ①教義と聖約 4
- ②教義と聖約88：123-26
- ③教義と聖約50：13-14, 21-22
- ④教義と聖約60：2, 4
- ⑤教義と聖約121：45-46
- ⑥教義と聖約1：23-24
- ⑦教義と聖約18：15-16
- ⑧イテル12：6, 27
- ⑨教義と聖約88：67-68
- ⑩ジョセフ・スミスの勧告「柔和と厳肅さをもって出て行き、イエス・キリストとその十字架上の死を宣べ伝えよ。ほかの人とその信仰や宗教について論争することなく、堅実な道を追い求めよ。」

3. 聖めの過程

これは、宣教師自身の聖めの段階を25項目（私の祈りの習慣はどれほど効果的で、有意義だろうか。キリストのような人生を送ることに、どれほど専心しているだろうか、など）にわたって自己評価するものです。これによって宣教師は、主のみ言葉を宣べ伝える器としてみずから備えていくことができるのです。

私たちは、これらの指針と高い標準とによって聖めの度を増し、みたまの影響を強く受けるようになり、伝道部全体のバプテスマも1983年から2年間で200パーセントも増加しました。

しかし、伝道部長はこうしてみたまの影響を受け、宣教師として高い標準を身につけはじめた私たちに対して、次のさらに高いチャレンジを与えられました。それは、高い標準によって、すでに聖め

られた状態を共に保持しようというものでした。私たちは伝道部長が示してくださった、その展望に胸を高鳴らせ、喜んでそれを迎え入れました。

私たちはこの期間を「聖めの季節」と呼び、10週間の特別な聖めの期間を過ごしました。

聖めの期間に入るため、私たちは熟考し、目標を立て、登るための備えと決意のときを過ぎました。この間に私たちはモルモン経に対する証をさらに強めるため、特定の日を定めて、朝6時から断食によってモルモン経を1日で読み通しました。

こうして私たちは、実際に聖めのときに入ったのです。この間私たちは救い主のみ姿を身に受け、救い主に対する証を胸いっぱい感じながら、人々と個人の救いのために働きました。

しかし、私個人の体験から傷のない捧げ物を主に捧げることは決して容易なものではありませんでした。自分が同僚と共に高く登れば登るほど、自分の弱点と欠点が明確に表われてきました。同僚が自分自身と闘い、弱点を克服しようと努力している姿を見て、自分の弱さのために弱り果てている自分がみじめに思えて悔い改めたことが幾度もありました。私は謙遜になり、主の助けを求め、今まで

感じたことのない自分を感じるようになりました。

ある日、私と同僚は30歳くらいの奥さんを教えることになっていました。同僚と一致して働くことでは最高頂に達していたときでしたが、そのレッスンはあまり調和のとれたものではありませんでした。

レッスンが終わって、私と同僚はなぜそうなったのかを話し合い、改善点を述べ合いました。そしてお互いにさらに良いレッスンができるよう、決意したときに、私たちは主の愛につつまれて共に抱き合い、共に泣いていました。

私は同僚の模範と愛、そして伝道部長の助けによって私がみずからの欠点を克服し、ここまで来れたことを全身全霊を尽くして主に感謝しました。そのときイエス・キリストが確かに自分の救い主であり、人が最善を尽くして初めて神の恵みにより救われることを知ったのです。

これは主のみ業です。宣べ伝える者と人々の救いにある特別な業です。もし私たちが自分の弱点に立ち向かい、熱心にみに業に励むなら私たちは清められ、聖霊はいつも共にあり、いつまでも主の良き宣教師でいられることを確信しています。（よろずや・ひとし 1959年生まれ、東京北ステーク部豊島ワード部）

娘と分かち合えた喜び

鹿児島地方部
都城支部
中原 道子



私の家族は、夫と娘ふたりの4人家族です。この世に生を受けてからすでに50年がたちましたが、振り返ってみますと、内容に違いはあったものの、各年代ごとに悩みや挫折を体験してきました。そしてそのたびに、人生って何だ

ろう、人間って、家族って、私自身のことわからなくなって、いつも何か信じられるものを探し求めていたように思います。そしてやっとまことの神様の教えにたどり着いたのだという気がします。私にこのチャンスを与えてくださり、私

各地のたより

に福音を教え、導いてくださいました方
方に心から感謝いたします。

主人と宣教師の長老たちが街頭で出会
い、私の家へふたりで来られたことから
それは始まりました。それまでも信仰
について自分で調べたり、人の話を聞く
のが好きでしたので、モルモン教会につ
いても話を聞いてみようという単純な気
持ちから宣教師を家に招き入れました。
実は10年ほど前にもモルモンの宣教師の
方が家へ来られ、家族でお話を伺ったこ
とがありました。「知恵の言葉」を聞くに
つけ、教えの厳しさに驚いて、私たちに
はできそうもないと思い、それっきりに
なっていました。家族全員そのときの
ことはよく覚えておりました。

私の友人に「ものみの塔協会」(エホバ
の証人)の会員の方がふたりおられます。
私の家で、一年ほど聖書の勉強とおしゃ
べりの会を続けておりました。しかし、
どうしても納得できない不思議な気持ち
がして、次女とそのことについて話し合
っていました。末日聖徒の教えに触れ、
神様やイエス・キリストのみこころを
知らされたのは、その勉強の途中でした。
聖典を読み、熱心に話を聞くうちに、私
は温かい、安らぎの気持ちを感じるよ
うになっていました。このような体験は生
まれて初めてでした。私は夢中で、時間
の許す限りモルモン経を読みました。聖
典を読み進めていくうちに、「これは真実
だ、神様の真理だ」と心の中で叫んで
いました。長い間探し求めていた真実の教
えがそこにたくさん書かれていました。
うれしさのあまり、夢中で次女に線を引
いたところを読んで聞かせました。そし
て次女も参加して、熱心にふたりで宣
教師の話の話を聞きました。親子で様
々な疑問について繰り返し尋ね、今
まで納得できなかったこともまるで
うのように氷解していききました。

4回目のレッスンのとき、私と次女の
ふたりとも風邪をひいてしまいました。
発熱し、頭痛がするので、日を変更し
てもらおうとして電話をとるのですが、
どうしてもダイヤルを回したくないので
す。そのあと宣教師が来られて、レ
ッソンを受けていると、だんだん心
が澄み、体が軽くなったようなと
てもよい気持ちになっていました。体
の調子が悪かったこと

も、頭の痛みも忘れていました。

12月の初め、次女の大学受験のため
にふたりで上京し、長女のもとで3人
で過ごす機会がありました。その折、長
女には何の説明もしないで私たちふ
たりは知恵の言葉などの戒めを守り
通しました。長女は大変不思議そう
に私たちを見ておりました。そして
彼女が冬休みに帰省したとき、昨年
の12月25日、クリスマスの日、私
と長女は生まれて初めてバプテスマ
会に出席し、次女がバプテスマを受
けるのを見、讃美歌を歌うという経
験をしました。私は心の中で長女も救
っていただけますようにと祈ってい
ました。私自身は1月21日にバプ
テスマをを願っていましたので、私
の次は長女もと願い、その後毎日
次女とふたりで祈りました。

私はすでに主人に話したように長女
にも、真実の福音がここにあつて、
これこそ私の探し求めていた、神
様が導いておられる教会であるこ
とを話しました。しかし長女は、こ
れが絶対正しい、これが唯一まこ
との神であるという言葉に対して、
反発してきました。どの宗教も、
すぐそういう考え方をするのでいや
だと言うのです。神様がおられる
ことは信じているし、どの宗教を
とってみても見る窓が違うだけで、
結局は同じ神を信じているのだと
言うのです。

私は何も言えませんでした。それは
主人とまったく同じ考えだったの
です。私は大変な間違いをしたのだ
らうかととても心配になり、私の
言い方やタイミングが悪かったの
かしらなどといういろいろ考え
ました。夕食の仕度をしながらも、
そのことが心から離れませんでした。
そんなとき次女が私のそばに来て、
とてもすばらしいアドバイスをし
てくれました。「お母さん、お姉
ちゃんには、何も言わない方が
いいと思うよ。宣教師に会う方
法を考えて、それで教会へ行く
ようになれば、自然に福音が理
解できると思うから、そうし
よう」と言うのです。私もその
言葉にうなずき、実行できるよう
祈りました。

長女は少しずつ変わっていきま
した。私は次女にありがとうと何
度も感謝しました。長女は短い
冬休みの間、正月もほとんど毎
日聖典の勉強を続けました。宣
教師が私たちのために自分のこ
とを忘れて、一生懸命福音を教
え、導いてくださ

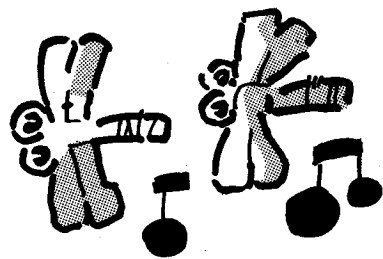
る姿に、長女は驚いたようです。そ
の姿を通して「私も宣教師たち
のようにすばらしい人間になり
たい」と言うようになりました。
長女はその思いをもって大学の
後期のテストのため東京へ戻り
ましたが、春休みに入り、また
聖典の勉強を熱心に続け、2月
23日についてバプテスマを受
けました。

3カ月の間に親子3人も導いて
くださり、救いの機会を与えて
くださった宣教師の方々に心
から感謝します。生涯忘れ
られない方々です。

今まで間違った思いや、考
えのため苦しんだ自分を思うと、
試練とはこういうものであつた
のかとつくづく思います。50
年間も特別何の取り柄もなく、
世の人人に対して何のお役にも
立てなかった私のような人間の
願いをかえ、正しく導いて
くださった天のお父様の愛の
深さに心から感嘆し、感謝して
おります。そのことを思うた
びに涙が流れます。毎日の生
活の中で私を見守ってくださ
る方がおられることを思うと、
大きな喜びと安らぎがあ
ります。

また私は祈りと感謝を知るよ
うになってから、こんなに感謝
することがたくさんあつたのか
と驚いています。祈るよ
うになってから私の周りの空
気が変わったように感じられ
ます。心温まる話やうれしい
ことがあふれるほどあります。
祈る中で、今まで以上に正し
く自分を見つめることができ
るようになりました。主人は
まだ神様の福音に目を向けず、
またそのことを深く考えよう
としませんが、私と子供たち
を温かく見守ってくれていま
す。主人に、家族に、そして
教会のすべての兄弟姉妹に心
から感謝しています。

子供たちと共に真理を深く
学び、愛が大切な宝であるこ
とをいつまでも忘れず、清
らかな思いで生きていきたい
と願っております。(なかはら
・みちこ 1935年生まれ)



神戸ステーキ部 姫路ワード部 教会堂改装なる

敷地面積：573.04㎡
建築面積：232.48㎡
延床面積：687.24㎡

●〒670 兵庫県姫路市新在家本町
3-2-5 TEL. 0792-97-7285



将 来この地域に姫路ステーキ部が建設されるための先駆けとして、姫路ワード部が改装されましたことを、会員と共に深く感謝いたします。福音が宣べ伝えられ、ワード部が組織されるまで10年、それから5年で完全なワード部として機能するための建物を頂きました。今私たちは、あと5年でもうひとつのワード部をと意気込んでいます。

姫路ワード部は、北は穴栗郡、神崎郡、東は加西市、西は揖保郡、新宮町、滝野市と広い範囲を含んでおり、神戸ステーキ部のほかの5ワード部の地域全体を合わせたのとはほぼ等しい広さを有しています。またこの地では道路や高速道路の建設、整備が進み、このたび総合大学も誘致されました。

現在この広い地域を教会の近くにある私の家を中心に、東北の加西市に大門副監督が、西北の新宮町に斎藤副監督がサタンの攻撃を防ぐように正三角形の陣を組んでいます。どちらの副監督も教会から25キロもある遠方に住まいがありながら、主の召しのために献身的に働いてくださっています。将棋の駒でいえば、さながら遠距離移動のできる飛車角のような存在です。しかし、歩一枚でもおろそかにしてはいけけないのがプロであり、プロ意識が欠落すれば、いつも負け将棋になってしまいます。

そこで考え出されたのが、教会員を専任宣教師経験者にする宣教師プログラム、いわば歩を「と金」にするようなプログ

ラムです。現在までに12枚の歩がと金になって活躍しています。歩の予備軍（初等協会の子供たち）がたくさんいる姫路ワード部の今後の課題は、この予備軍の成長であり、これからが真価を問われるときです。

会員たち一人一人が福音を実際に生活

に取り入れ、みずからを常に改善し続け、共に伝道の業を進めるとき、新たに姫路ステーキ部が組織されるのも夢ではなくなることでしょう。Do it! (実行) これを合言葉に頑張っていきたいと思います。(姫路ワード部監督・長野進)



1枚のポスターから

姫路ワード部監督 長野 進

私 は特別信仰心があった訳ではありませんが、幼い頃「自分がなぜここにいるのだろう、どこから来たのだろう、どこへ行くのだろう」といったことについて深く考えたことがあります。考えても結論が出る訳でもなく、結局考えないようになっていましたが、いつまでも心の内に、解決できない問題として残っておりまして。仏教を信仰していた祖母の熱心な姿も知っておりますし、私自身はキリスト教の日曜学校へ通い、教える聞いたこともあります。とても宗教が解決できる問題ではないと思いました。

学生時代に、この世的な自由を求めて欧米諸国へ渡ってみたいと思うようになり、英会話を学び始めました。毎朝NHKなどの教育プログラムや、学校図書を借りて独学をしたのですが、実際に外人と

の対話をしてみたいと思うようになり、その機会を探しておりました。あるときふと、学校へ向かうのにもいつも乗るバス停のひとつ手前からバスに乗ってみようと思い、行く道とは逆の方向へ足を進めました。バスがなかなか来なかったのも、その間停留所付近に張ってあるちらしを見てみると、一枚のポスターが目にとまりました。雨に打たれて読みにくいながらも、字を追ってみると英会話のポスターで、すぐ近くにある教会のようでした。早速その週に開かれる会に参加しようと思ひ、メモをとってバスに乗りました。

教会は、以前に2、3度訪れたことのある立派なものとは異なり、古い病院跡の建物を使用したものでした。しかし、宗教に興味のない私にとってはどうでもよいことで、ただこのような建物に、ど

各地のたより



うしてこんなにも立派なアメリカ人宣教師がいるのか不思議に思いながら、約6カ月間の日々を過ごしていました。

ある晩、英会話のあとでタレントショーがMIA(独身成人プログラムの前身)で行なわれるということで教会員から誘いを受けましたが、もともとその気持ちのない私は、断わりながら帰途を急ぎました。ところが教会を出て少し歩いた所で、私の中で何か自分のものではない強い気持ちがするのです。そしてそれは、もう一度教会へ戻らねばならないという気持ちでした。しかし私は興味などないと再び思いつつ、教会から遠ざかろうとしました。2、3歩足を踏み出すと、今度は前にも増して強い力で捕らえられた自分を感じ、とうとう足が前へ進まなくなり、教会へ戻ることにしました。

タレントショーでは、これまで自分が知っていたどの教会とも異なったものを感じ、宣教師にそのことを話しました。すると宣教師は「なぜそうなのか知りた

いですか」と言われ、レッスンは始まりました。初めて聞くことばかりで、まったく半信半疑でしたが、それから約1カ月後にバプテスマを受けることになりました。その日は朝から小雨が降っていましたが、バプテスマを受け、按手による確認を受けたあとに、空に虹が出ていることを教会員の方が教えてくれました。

強い証こそなく、ただ疑う余地のない聖霊の導きにより、バプテスマを受けた私ですが、それから何度となく、主の助けと導きを目のあたりにして少しずつ成長することができました。たとえば、伝道に行くことは神権者の義務であることは、百も承知していましたが、これだけは私にはとてもできないと思っていました。しかし、主が生きておられるのが確かなように主は私に、謙遜になるための経験を与えてくださいました。

当時私は海外派遣要員としてある会社で電気関係の仕事に従事していました。入社してから2年間、ほとんどが実習で

した。会社員というより会社の将来の財産といった感がありました。ですから、そのような世話になりっ放しの状態で会社を辞めることも、両親の許可を得ることもまったく不可能だろうと考えていました。というよりも考える気もなかったと言った方が正しいかもしれません。しかしある経験を通して、私はモーセのように人は物の数にもあらざることを知り、たった2年間主のために働くことを躊躇して自分を恥じ入りました。実は自分の気持ちが一番問題だったのです。

今私はエズラ・タフト・ベンソン大管長が語られたように、自分の性格が少しでも主に似た者となるように、自分を変えるチャレンジをしています。霊が肉体をコントロールするのは、食べたい、寝たい、怠けたい、と3拍子そろった私には至難の業です。しかし主が私を見るときに、こんなに成長できるとは、と思われるほどに人生の光陰を有意義に励みたいと思います。

私は主が確かに生きておられることを知っています。ひとりでも多くの人に福音のおいしい実を味わってほしいと思います。しかし、残念なことに監督をしていて知ったことですが、教会員でも、この実を本当に味わっている人は少ないように思います。今の私の義務は兄弟姉妹たちに福音の実を本当に味わっていただくことにあります。本当に味わえば、幸福と平安が常に心の内にあり、何ら心配することはありません。主に全幅の信頼を寄せて、これからも歩み続けたいと思います。(ながの・すすむ 1954年生まれ)

編集室から

《原稿を募集しています》

▷「マイスクールの子供たち」として連載中の「ママさん先生」藤谷利恵子姉妹の記事に関するご意見、ご感想、体験談などを募集しています。どしどしお便りください。

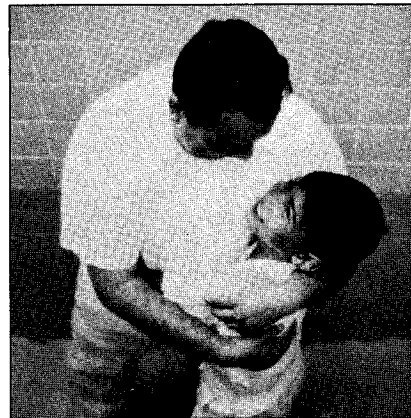
▶10月号掲載分の締切は8月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。あて先:〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

渋谷ブックセンターから

「バプテスマ:イエスさまに従う約束」

フィルムストリップとカセットテープ
新発売 11分 1,500円 ストックナンバー VVOF3277JA

●8歳になった子供のバプテスマ会で上映するのに最適。イエス・キリストの教えに従うという、バプテスマのときに交わす誓約について教える。両親や初等協会の教師が利用して、子供をバプテスマに備えさせることもできるし、年長の子供たちにはバプテスマの誓約を思い起こさせるものとして用いることができる。



クモラの丘霊園

分譲のお知らせ

昨年の4月1日から開始されたクモラの丘霊園分譲の第2期募集は、今年の12月31日で一応の区切りとなりますが、これまでに24の応募がございました。第1期募集の95を含めると、合計119の分譲が行なわれたこととなりますが、霊園にはなお1,481の墓石がございます。したがって、できるだけ早く残りの分譲が完了できますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

分譲の価格が図示のとおり、他と比較して格段に安くなっておりまして、教会が一切利益を得ないことや、金利やインフレによる値上りを最小限に抑えてきたためです。さらに、毎月たった4,300円という無利子の長期分割払いは、私たちの経済的負担を軽くするうえで大きな助けになっています。

故デビッド・O・マッケイ大管長が言われたように、教会では異例の教会墓地の購入が実現したことを考えれば、神様が日本の聖徒たちをどれほど深く愛しておられるかがよくわかります。分譲の促進方法についても地域会長から、商業ベースのような派手なやり方ではなく、ステークス部長、監督、支部長（伝道部の場合は、伝道部長、地方部長、支部長）の神権ラインで行なうよう指示がありました。

東京近郊の皆様、そして日本全国の皆様のご支援とご協力により、この美しい園の祝福が、できるだけ多くの聖徒たちに及びますよう心からお祈りいたします。

クモラの丘霊園事務局

第2期募集についてのご案内

クモラの丘霊園の第2期募集を以下の要領で行ないます。つきましては、その趣旨をご理解のうえ、ふるってお申し込みくださるようお願い申し上げます。

1. 墓地永代使用料 1区画260,000円
2. 墓地管理料 年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします)
3. 申し込み方法 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
イ. クモラの丘霊園使用申込書
ロ. 住民票
ハ. クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
ニ. 銀行自動振替手続き書類
4. 申し込み期間 昭和60年4月1日より昭和61年12月31日まで
5. 墓所の指定 申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。
6. 初回金および管理料の振込先

三和銀行 青山支店 普通口座 219499
クモラの丘霊園 北村正隆

〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局
電話 03 (440) 2351

